

平成30年3月期 第2四半期決算 説明会

2017年11月21日

阪和興業株式会社

連結経営成績

- ・売上高
鋼材や金属資源価格の上昇により、前年同期比17%の増加。
- ・販管費
前年同期比11%増加(内、新規連結影響3%)。人件費は約8億円の増加。
- ・経常利益
前年同期の為替差損の差益への転換、受取利息・配当金の増加により、24%増益。
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益
特別利益約5億円も加わり、31%の増益。

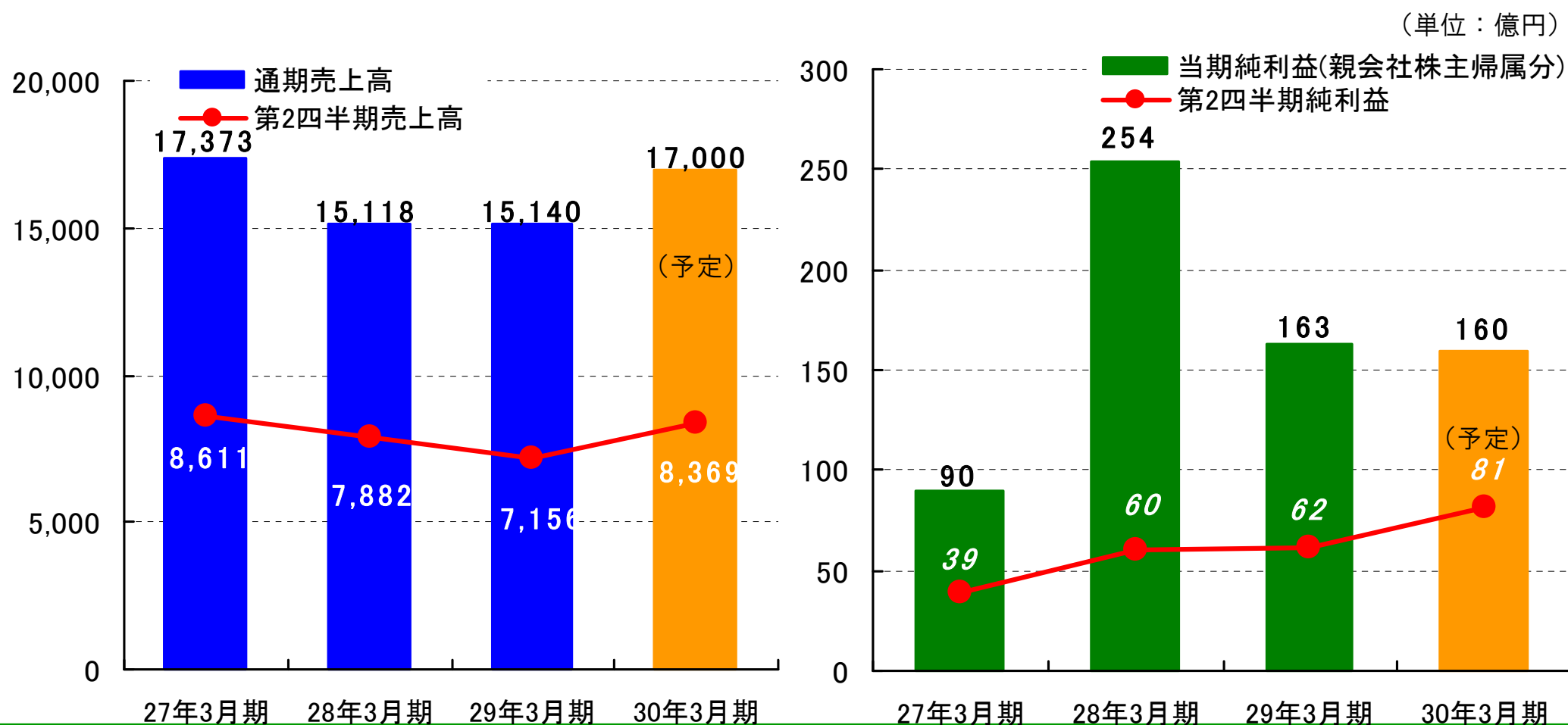
(単位：億円)

	前第2四半期	当第2四半期	増減比
売上高	7,156	8,369	+17%
売上総利益	307	335	+9%
販管費	198	221	+11%
営業利益	109	114	+5%
経常利益	99	122	+24%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	62	81	+31%
一株当たり四半期純利益	151.42円	200.66円	+33%
四半期包括利益	41	103	+150%

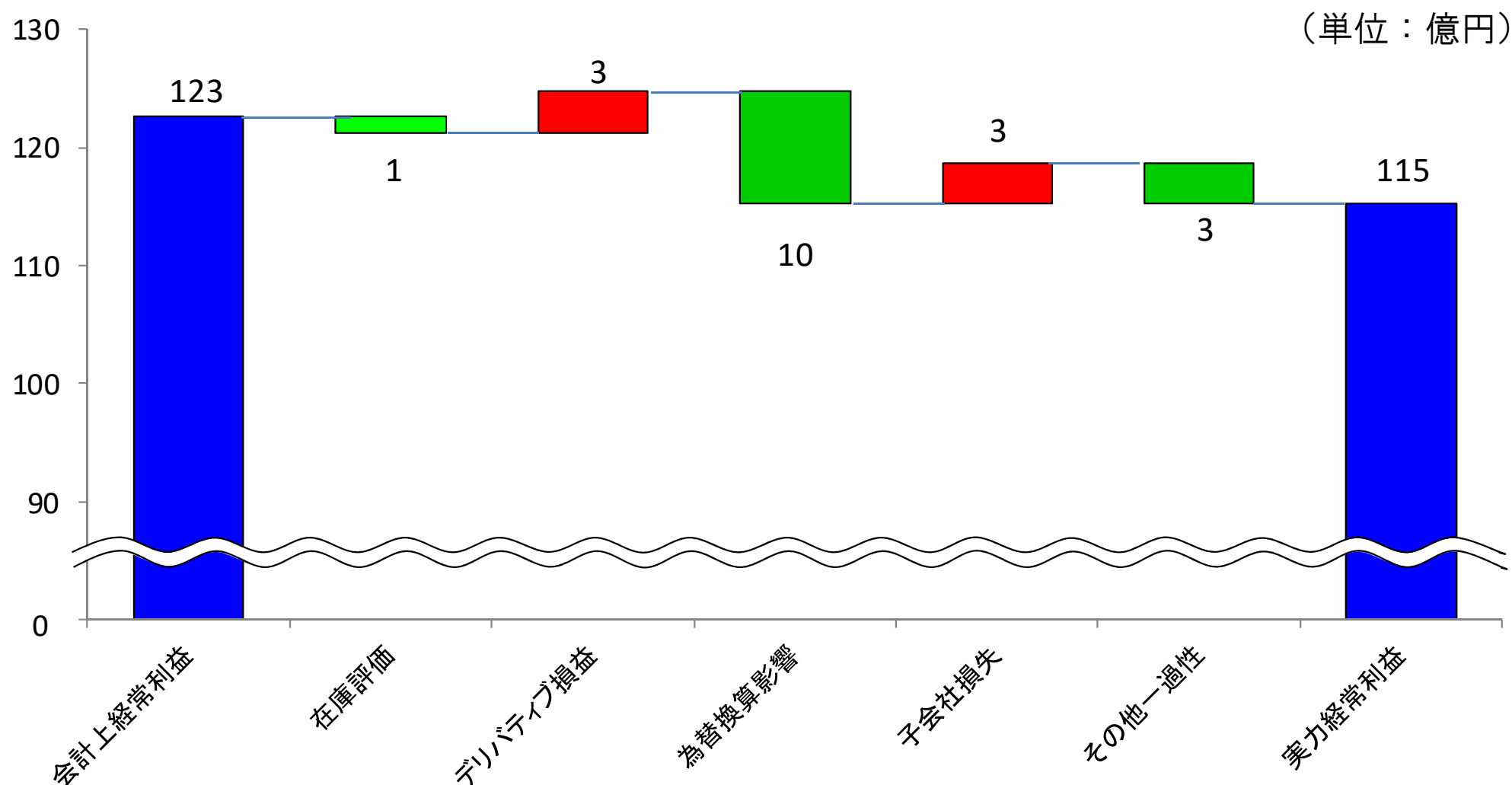
(一株当たり四半期純利益は、10月に実施した株式併合(5株⇒1株)の影響を加味して再計算したものの。)

売上高は資源価格の回復につれて、上昇に転じている。

親会社株主に帰属する当期純利益は、過去2期は不動産売却による税金の押し下げ効果があったが、その影響を除けば堅調に推移している。



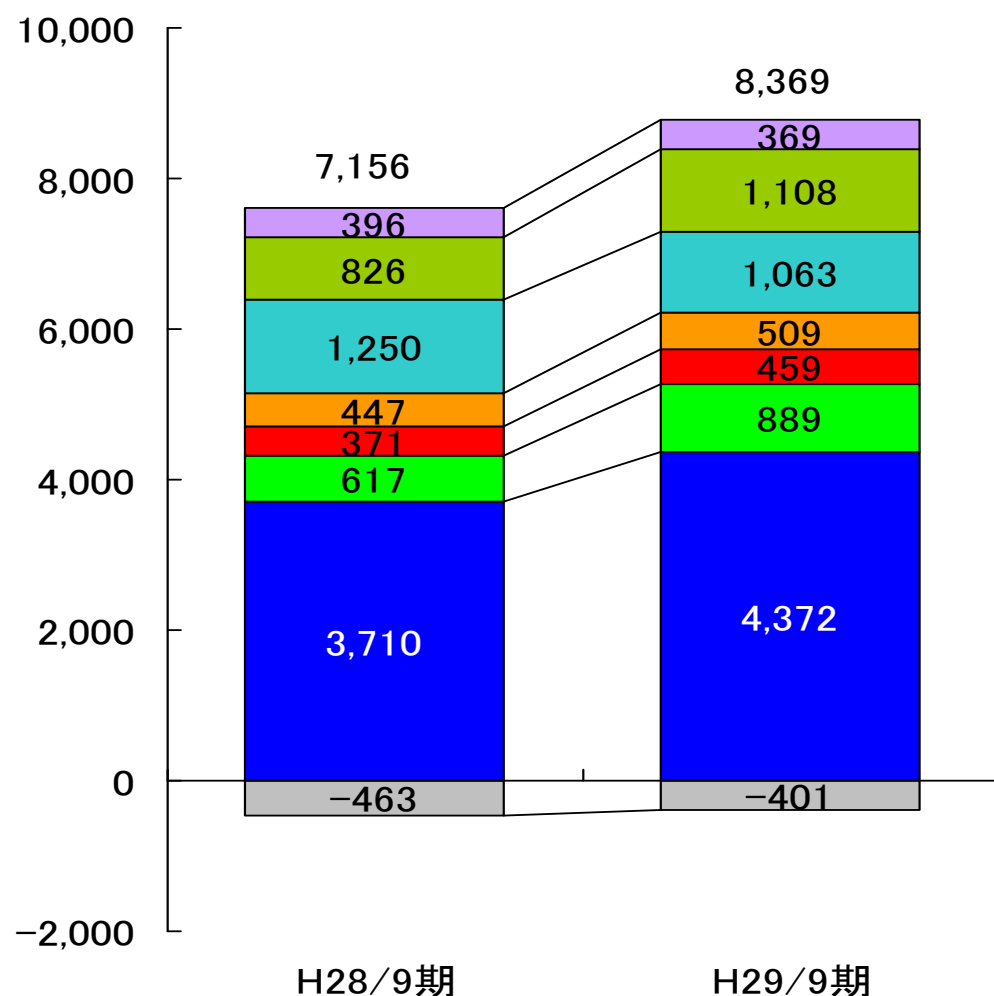
経常利益123億円に対し、在庫評価やデリバティブなど期末時価評価損益、外貨建債権債務の時価評価、子会社での一時的な損失など一過性の要素を除外すると、実力ベースでは115億円程度の経常利益を実現（前年同期は104億円）



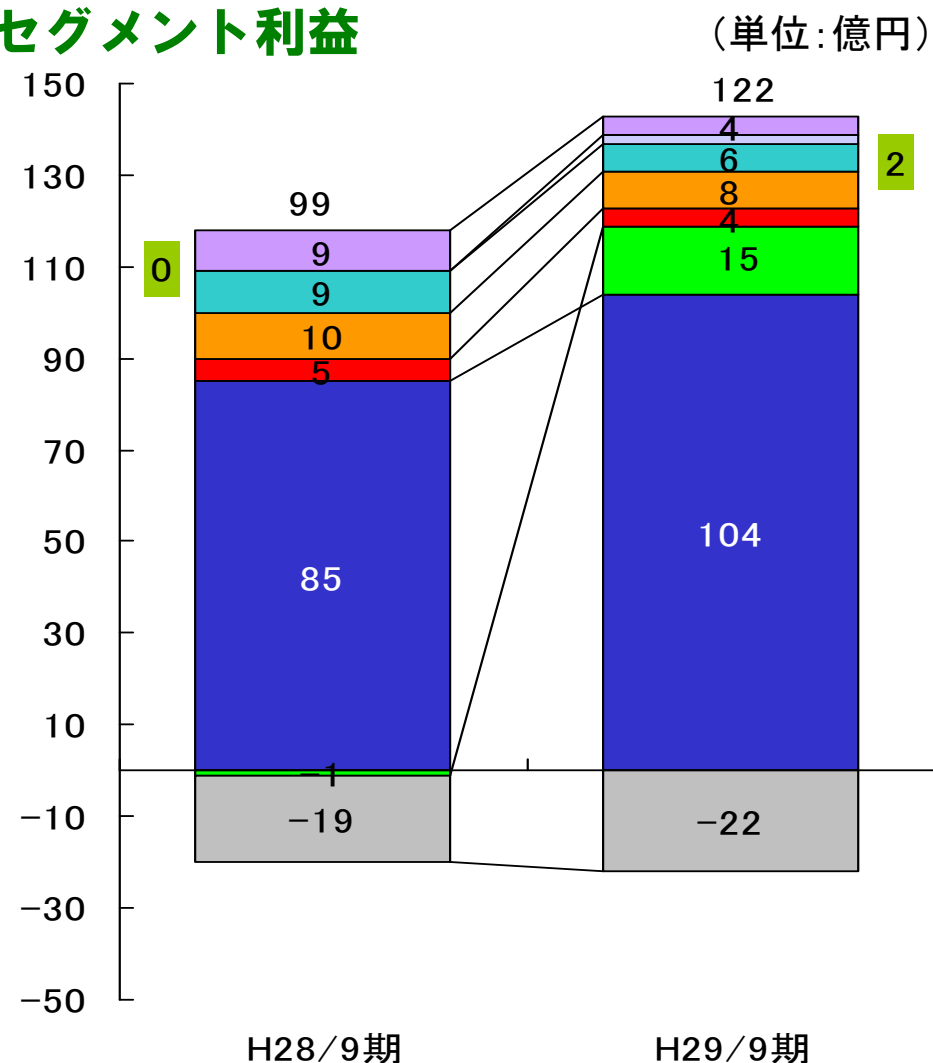
事業セグメント別の状況

取扱数量が減った石油化成品事業を除き、他の報告セグメントは増収に。
利益面では、鉄鋼事業や金属原料事業が増益に寄与。

売上高



セグメント利益



- ・ 総資産
投資有価証券や売上債権の増加などにより、前期末比10%の増加。
- ・ 有利子負債
運転資金需要の増加への対応や有価証券取得資金として借入金が増加し、前期末比14%の増加。ネットDERは1.5倍に上昇。
- ・ 純資産
日本南ア・クロムの非支配株主持分の増加や親会社株主に帰属する四半期純利益からの積み上がりなどにより、前期末比13%増。
(単位：億円)

	前期末	当第2四半期末	前期末比
総資産	6,942	7,646	+10%
負債	5,225	5,711	+9%
有利子負債	2,596	2,967	+14%
ネットDER	1.4倍	1.5倍	+9%
純資産	1,716	1,934	+13%
自己資本	1,704	1,783	+5%
自己資本比率	24.5%	23.3%	△1.2pt
1株当たり純資産	4,193.50円	4,387.83円	+5%

(一株当たり純資産は、10月に実施した株式併合(5株⇒1株)の影響を加味して再計算したものの。)

- ・ 営業活動 C F
売上高の伸びに伴う運転資金需要の増加などにより、72億円の支出。
- ・ 投資活動 C F
投資有価証券の取得や長期貸付金の実行などにより、335億円の支出。
- ・ 財務活動 C F
資金需要の増加に対応した長期借入金などによる調達増加により、441億円の収入。

(単位：億円)

	前第 2 四半期	当第 2 四半期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	220	△72	△293
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13	△335	△322
財務活動によるキャッシュ・フロー	△55	441	+496
現金及び現金同等物期末残高	404	316	△87

平成30年3月期(通期)の連結業績予想

- ・売上高予想

対予想進捗率49%と概ね期初予想に沿った進捗率につき、据え置き。

- ・利益予想

営業利益の進捗率が若干低いものの、為替要因が大きく、経常利益以降は概ね期初予想に沿った進捗率につき、据置き。

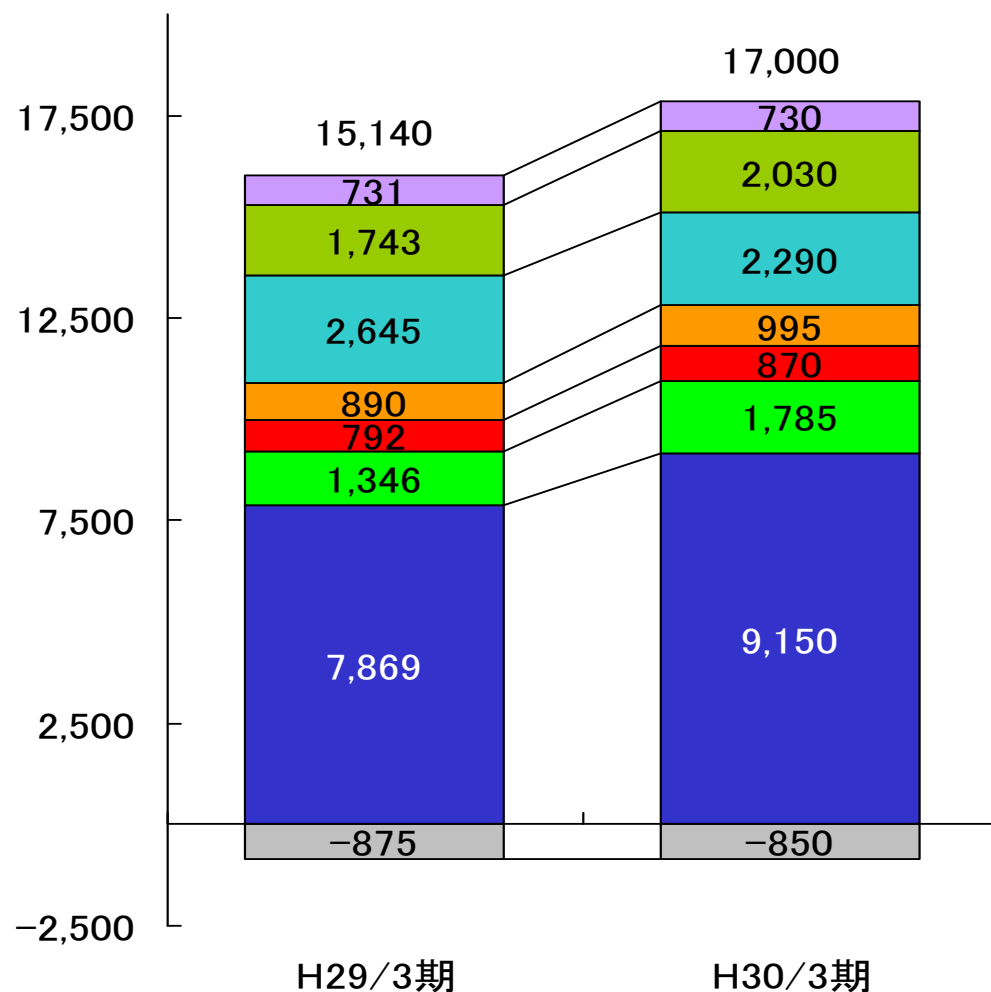
(単位：億円)

	平成29年3月期 (実績)	平成30年3月期 (予想)	増減比
売上高	15,140	17,000	+12%
営業利益	234	255	+9%
経常利益	229	240	+5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	163	160	△2%

事業セグメント別予想

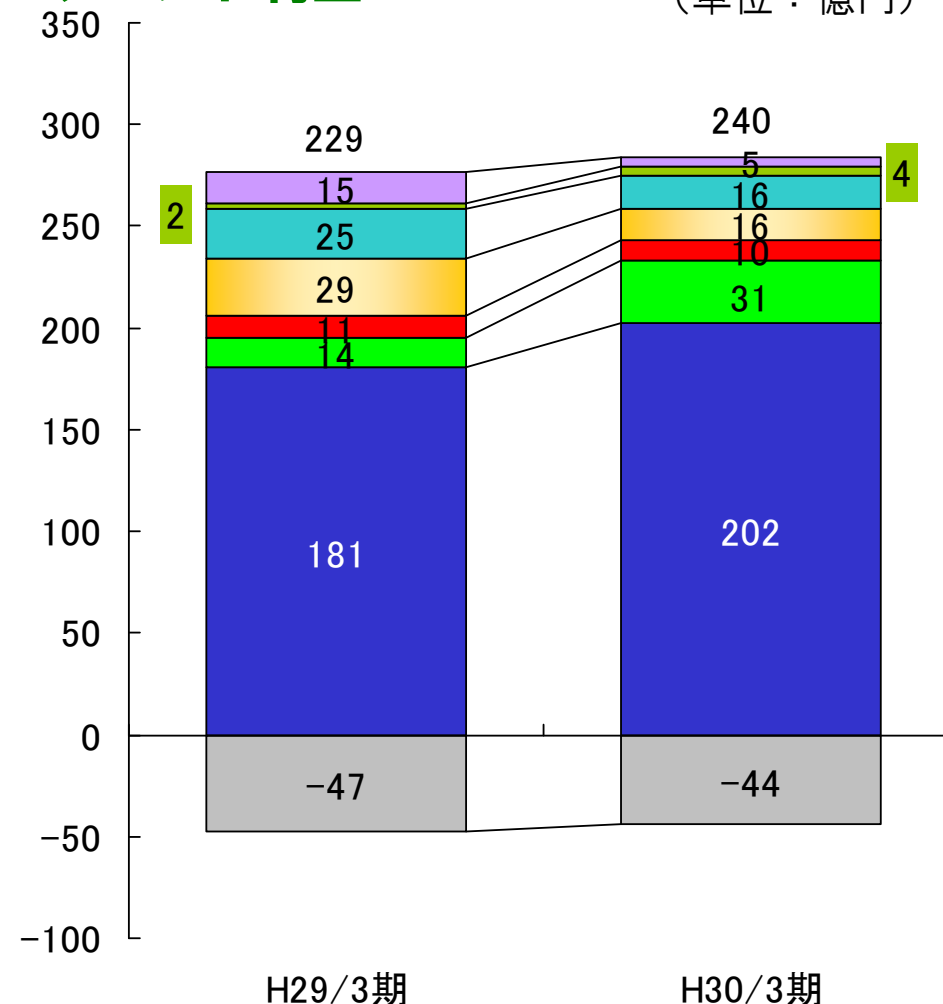
売上高・セグメント利益ともに合計額は据え置き。石油・化成品、食品事業の減益に対し、鉄鋼事業、金属原料事業の増益を見込んでいる。

売上高



セグメント利益

(単位：億円)



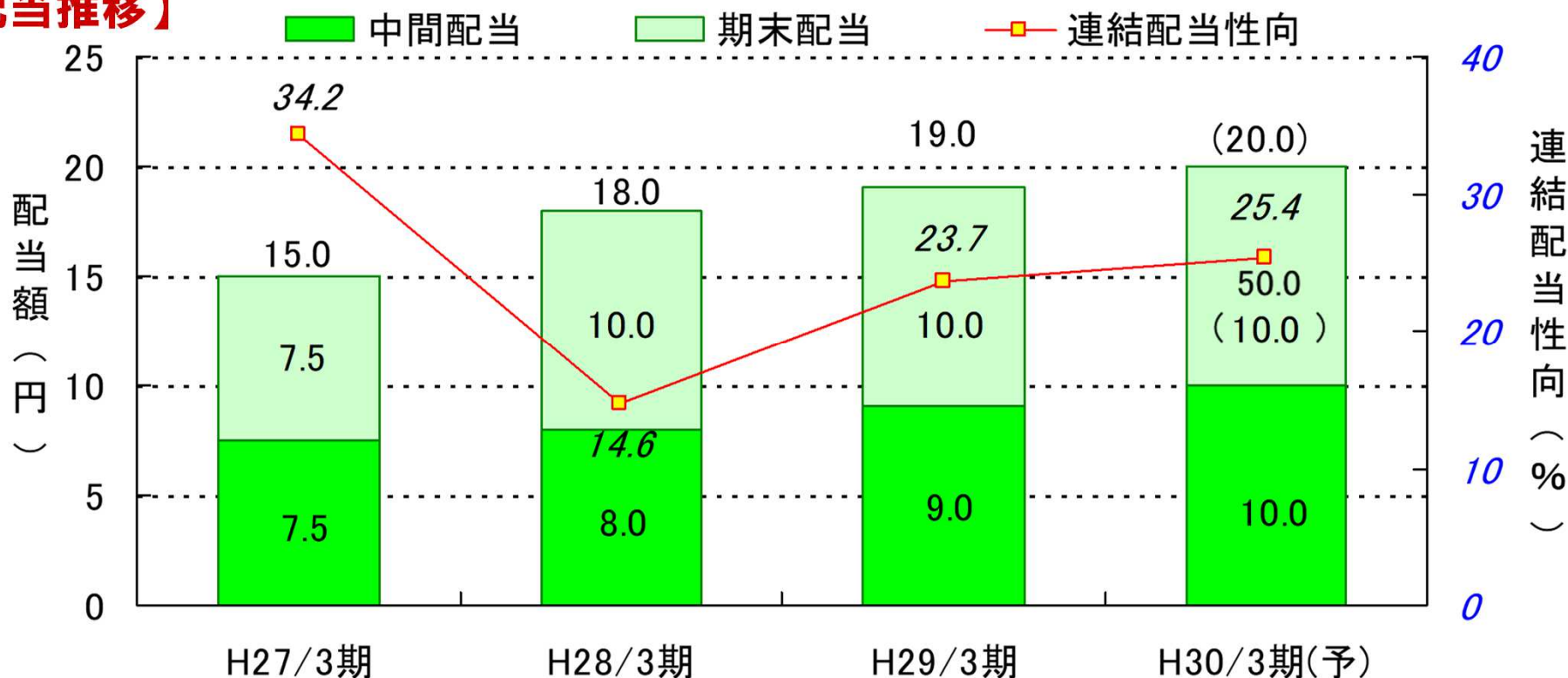
■ 鉄鋼 ■ 金属原料 ■ 非鉄金属 ■ 食品 ■ 石油化成品 ■ 海外販売子会社 ■ その他 ■ 調整

【配当方針】

安定した配当を継続して実施することを第一義に、収益力の向上に努め、基礎的な収益水準の上昇とともに、戦略的投資からの利益回収状況に合わせて、配当額の増加を目指してまいります。

(当期配当) 中間配当10円を実施予定、期末配当は50円を見込む。
(期末配当額は、5株を1株とする株式併合の影響を反映したもの)

【配当推移】



鉄鋼事業セグメントの状況

(単位：億円)

	前第2四半期	当第2四半期	増減比
売上高	3,710	4,372	+18%
セグメント利益	85	104	+21%

・売上高

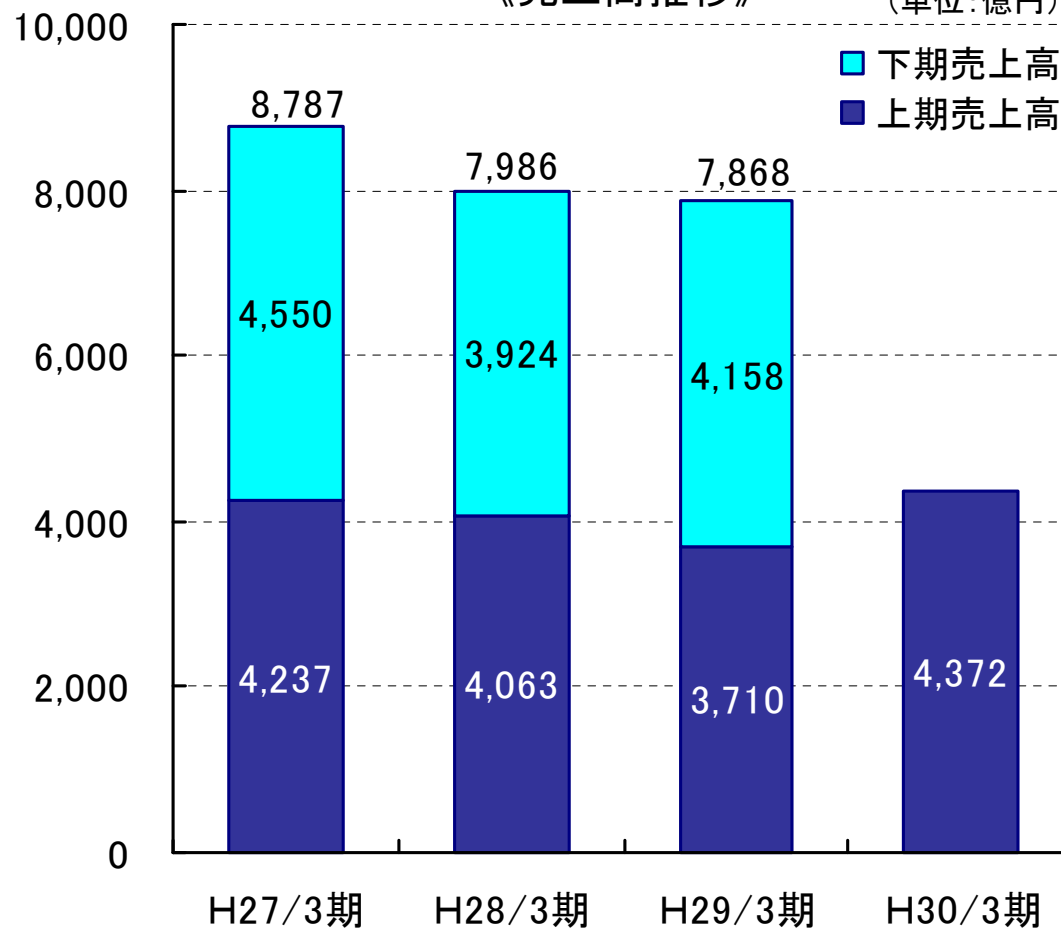
大きな盛り上がりこそないものの、需要は堅調に推移し、取扱量は増加。単価水準も切り上がり、増収。

・セグメント利益

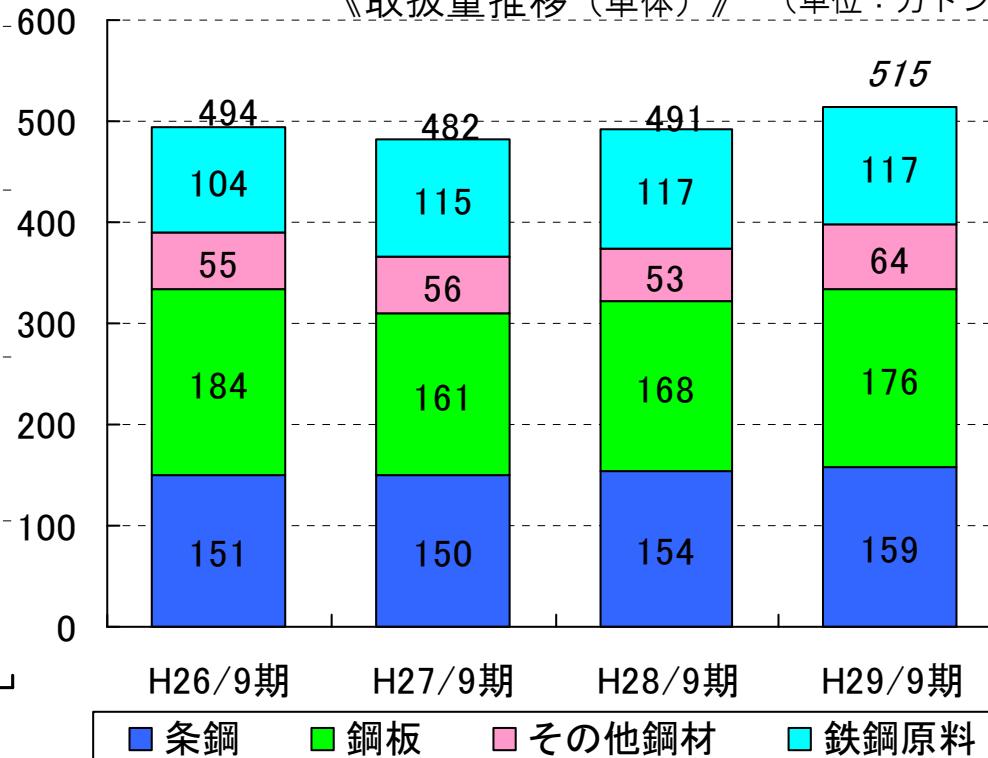
条鋼類は仕入れコストの上昇により利幅縮小も、鋼板類中心に紐付き価格上昇や子会社の利益増が押し上げ。

《売上高推移》

(単位：億円)



《取扱量推移（単体）》 (単位：万トン)



金属原料事業セグメントの状況

(単位：億円)

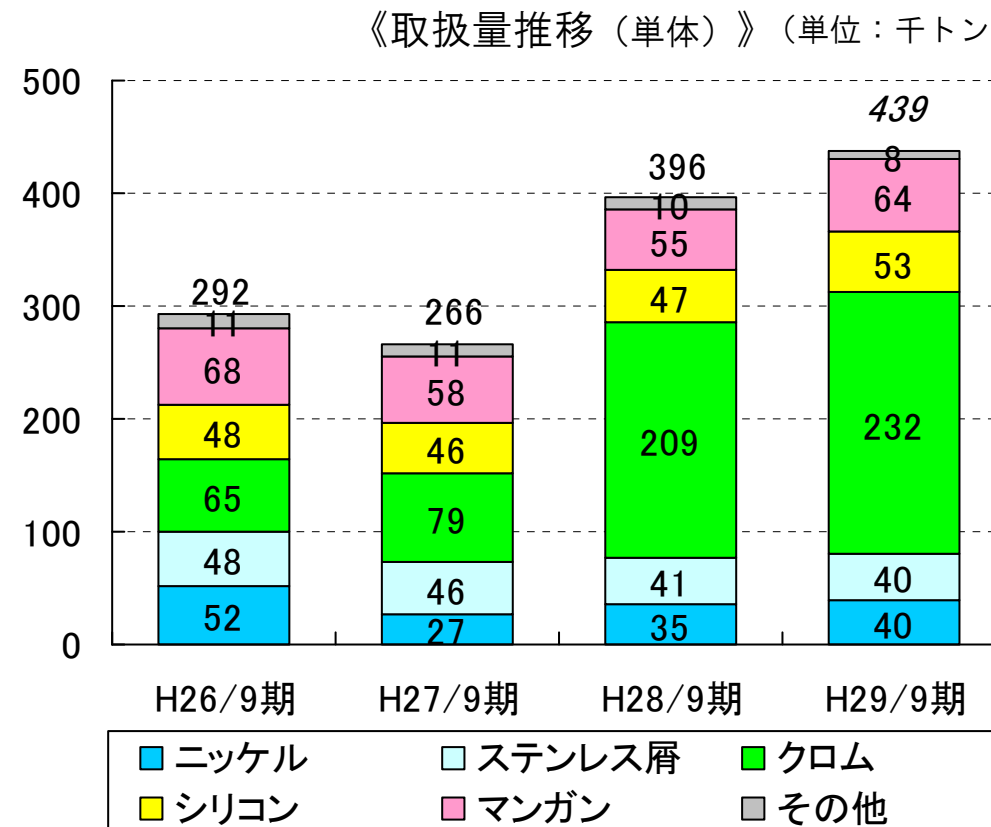
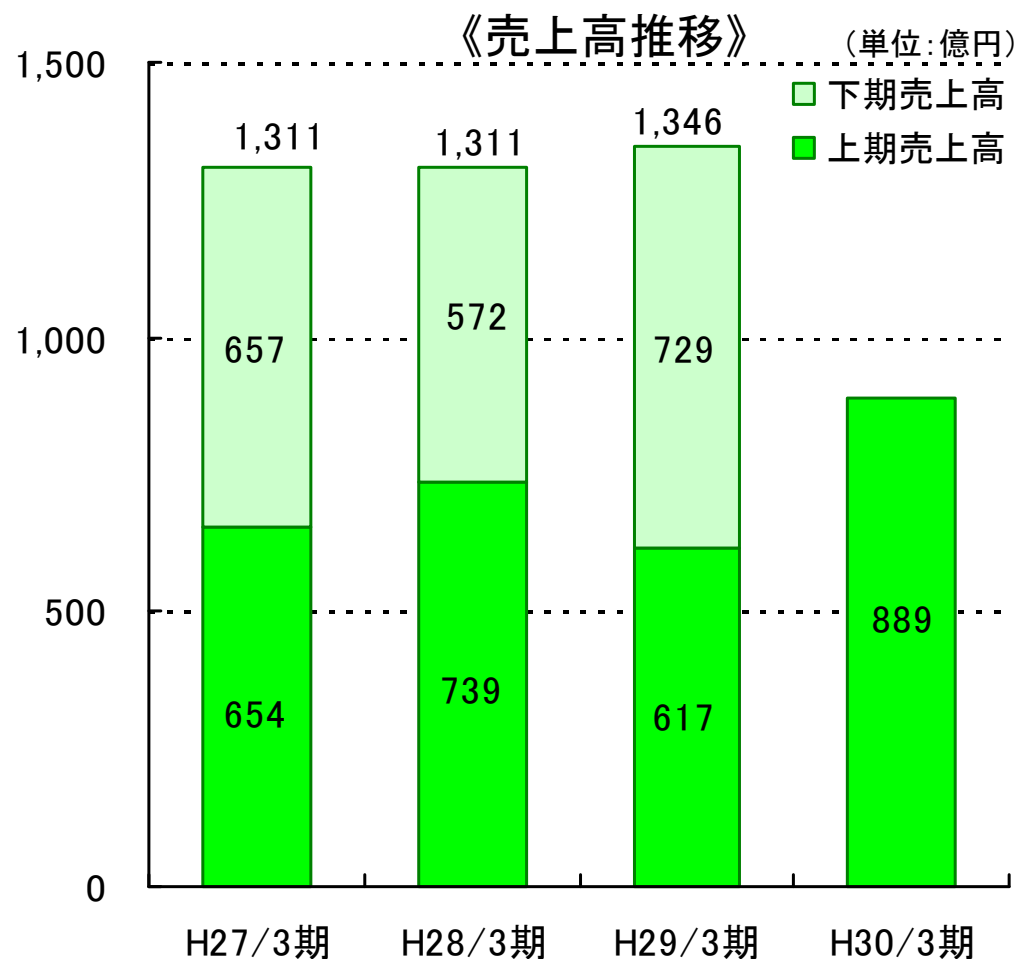
	前第2四半期	当第2四半期	増減比
売上高	617	889	+44%
セグメント利益	△1	14	—%

・売上高

合金鉄やニッケル価格が上昇基調にあった他、クロム系・マンガン系合金鉄やステンレス原板の拡販により増収。

・セグメント利益

合金鉄販売の増量・価格上昇による利益増に加え、前期赤字だった昭和メタルの収益改善も寄与し、増益。



非鉄金属事業セグメントの状況

(単位：億円)

	前第2四半期	当第2四半期	増減比
売上高	371	459	+24%
セグメント利益	5	4	△8%

・売上高

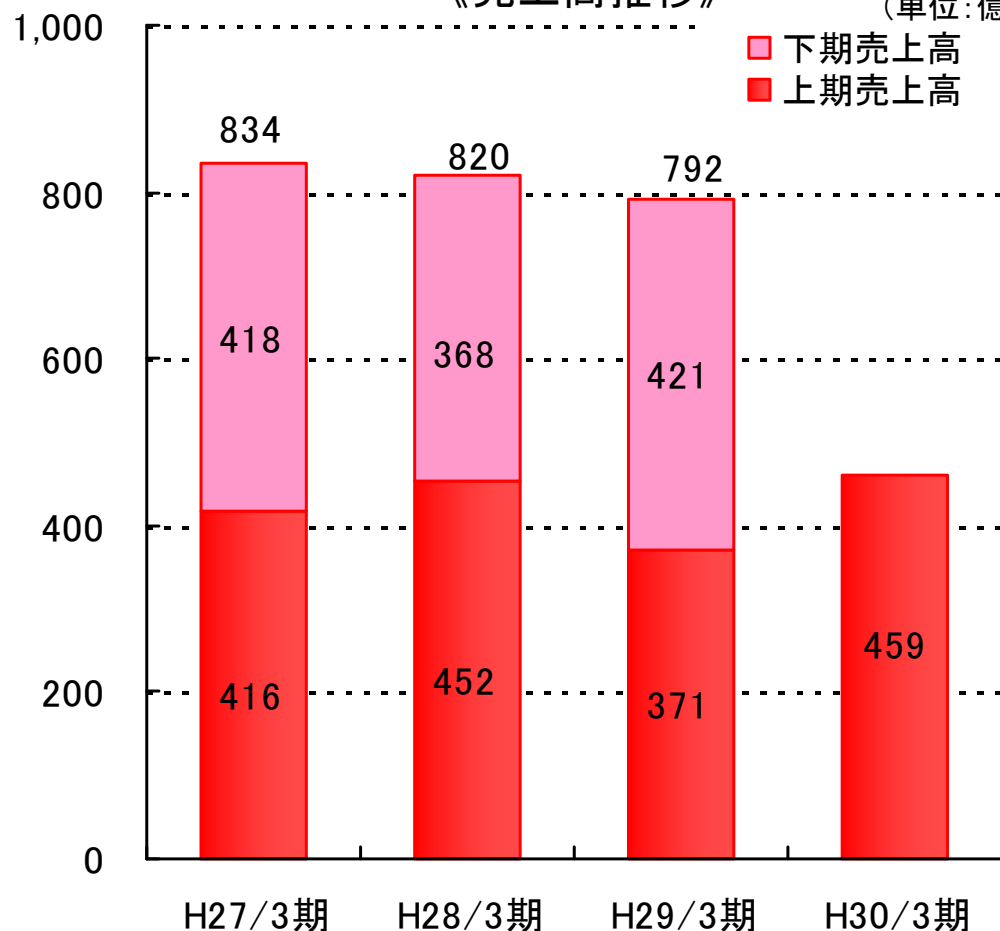
アルミ・銅などの金属価格上昇と銅スクラップの販売増などにより増収。

・セグメント利益

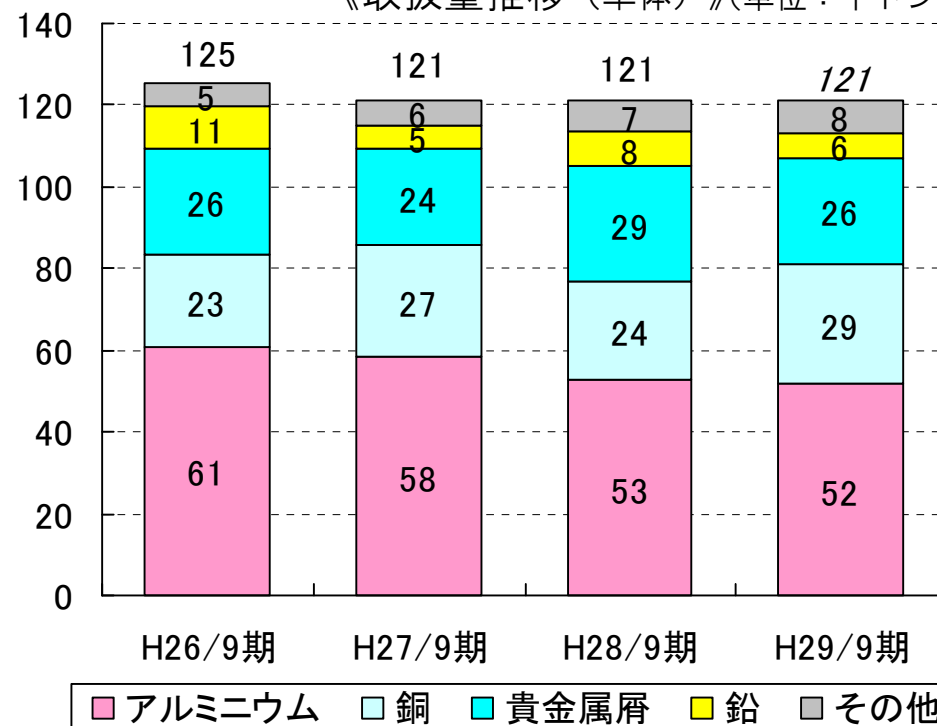
商品価格の上昇により、事業収益は増加したものの、外貨建債務の期末レート換算損失により、減益。

《売上高推移》

(単位：億円)



《取扱量推移 (単体)》(単位：千トン)



食品事業セグメントの状況

(単位：億円)

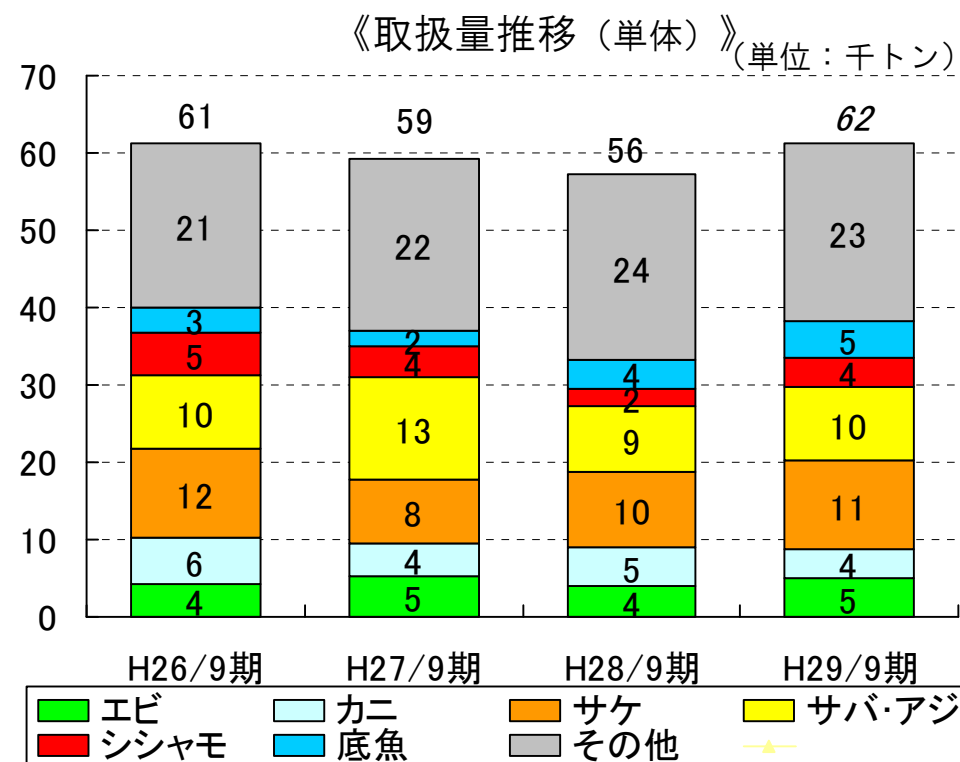
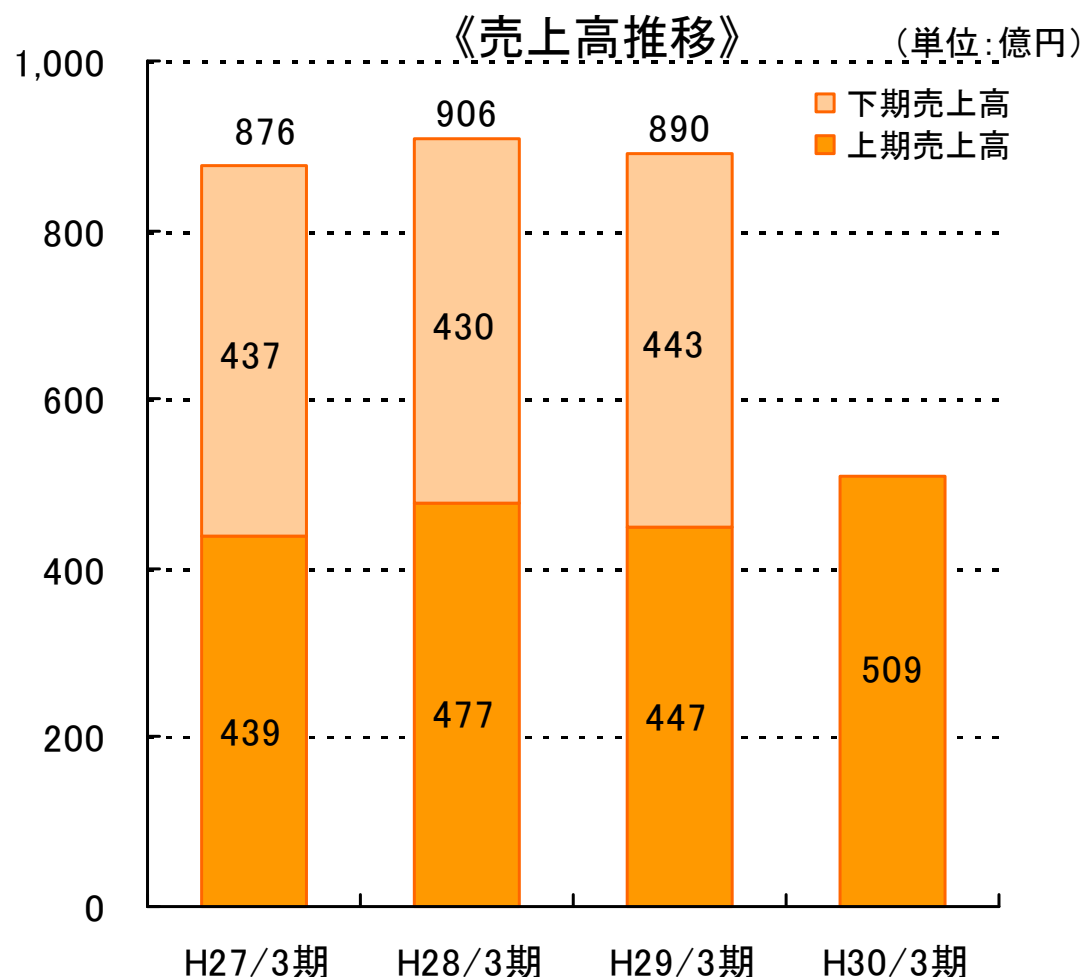
	前第2四半期	当第2四半期	増減比
売上高	447	509	+14%
セグメント利益	10	8	△15%

・売上高

海外での水揚げ量や在庫が低水準でエビ・カニ・サケなど主力商品の価格が高止まりし、取扱量も堅調だったことから増収。

・セグメント利益

産地価格の上昇により、仕入れコストが前年同期に比べ上昇したことから減益。



石油・化成品事業セグメントの状況

(単位：億円)

	前第2四半期	当第2四半期	増減比
売上高	1,250	1,063	△15%
セグメント利益	9	6	△28%

・売上高

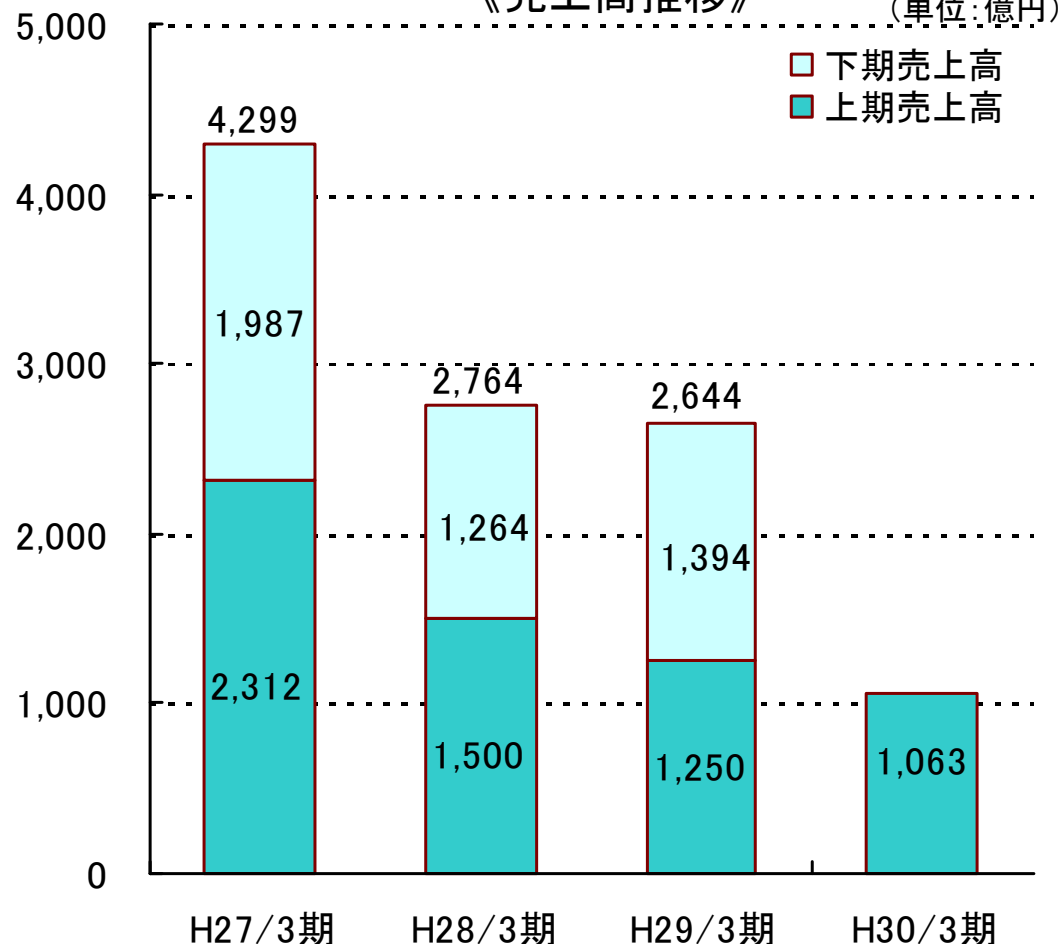
石油製品価格は緩やかに上昇したものの、スポット販売や需給調整取引の減少により、減収。

・セグメント利益

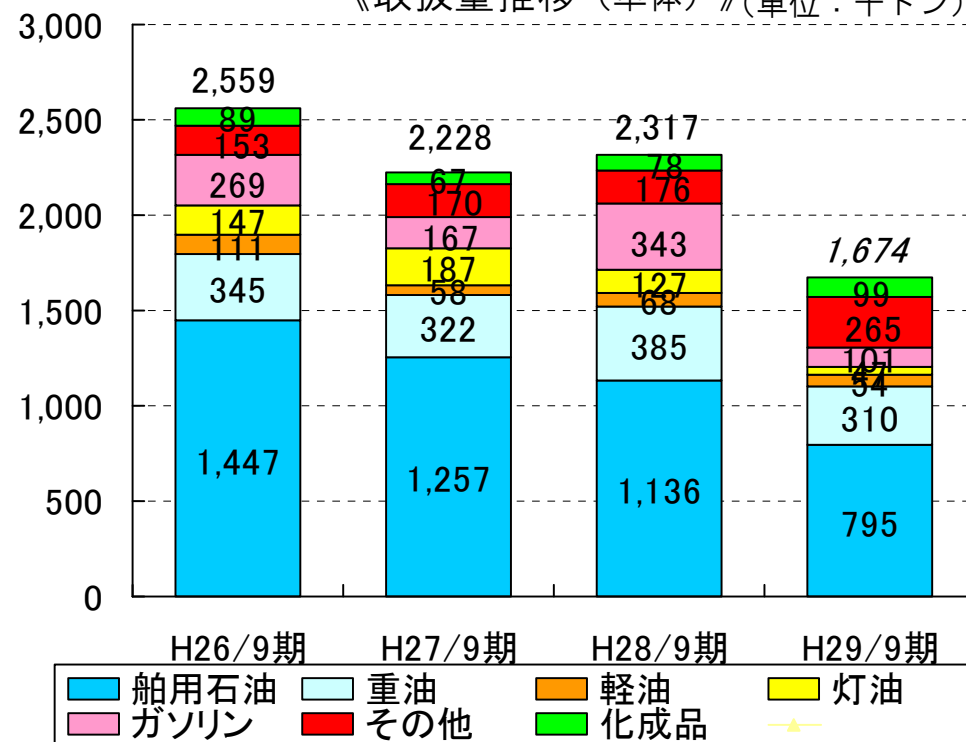
元売の価格政策により仕入れコストが上昇するも、末端価格への転嫁が遅れ利幅が縮小、前期好採算だった輸入雑貨販売の利益も平準化し、減益。

《売上高推移》

(単位：億円)



《取扱量推移（単体）》(単位：千トン)



海外販売子会社セグメントの状況

(単位：億円)

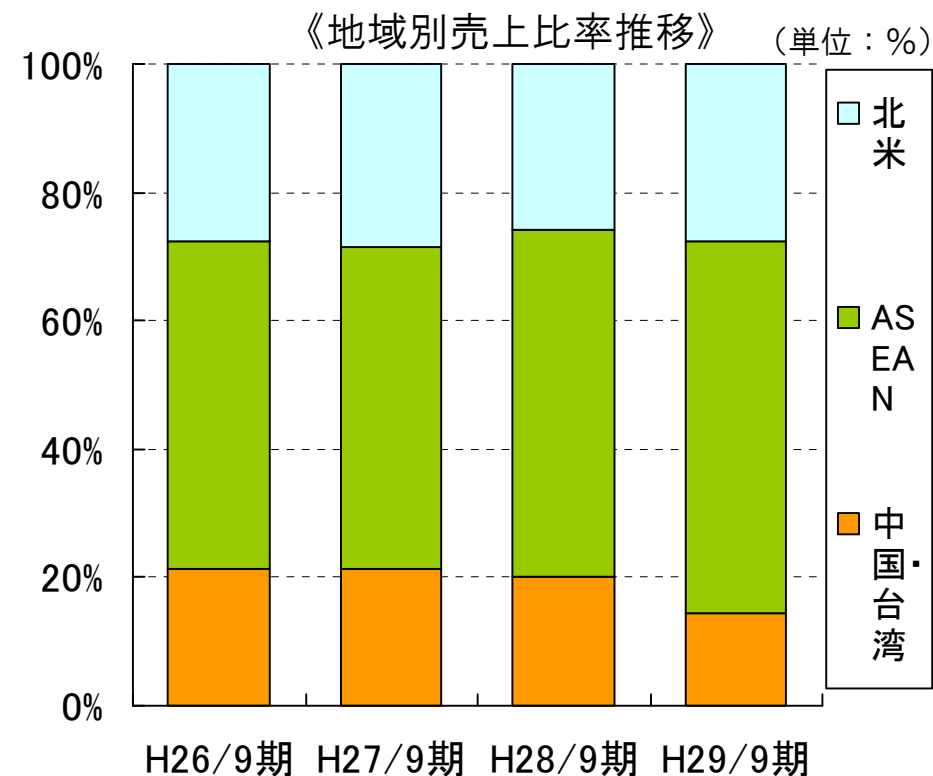
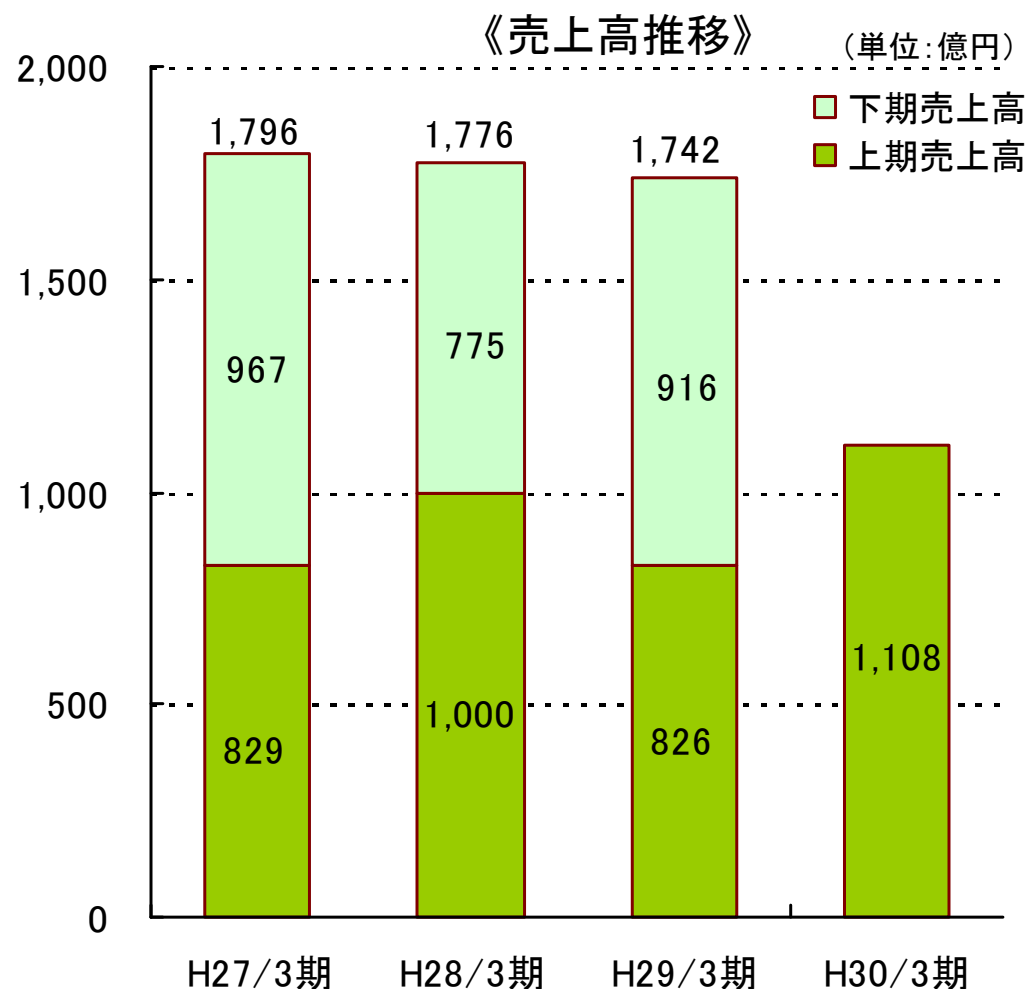
	前第2四半期	当第2四半期	増減比
売上高	826	1,108	+34%
セグメント利益	0	2	—%

・売上高

シンガポールでの船用石油やタイ・シンガポール・北米での金属スクラップの販売増により増収。

・セグメント利益

売上増加による利益増に加え、華北の販売子会社の持分法投資収益も改善し、増益。

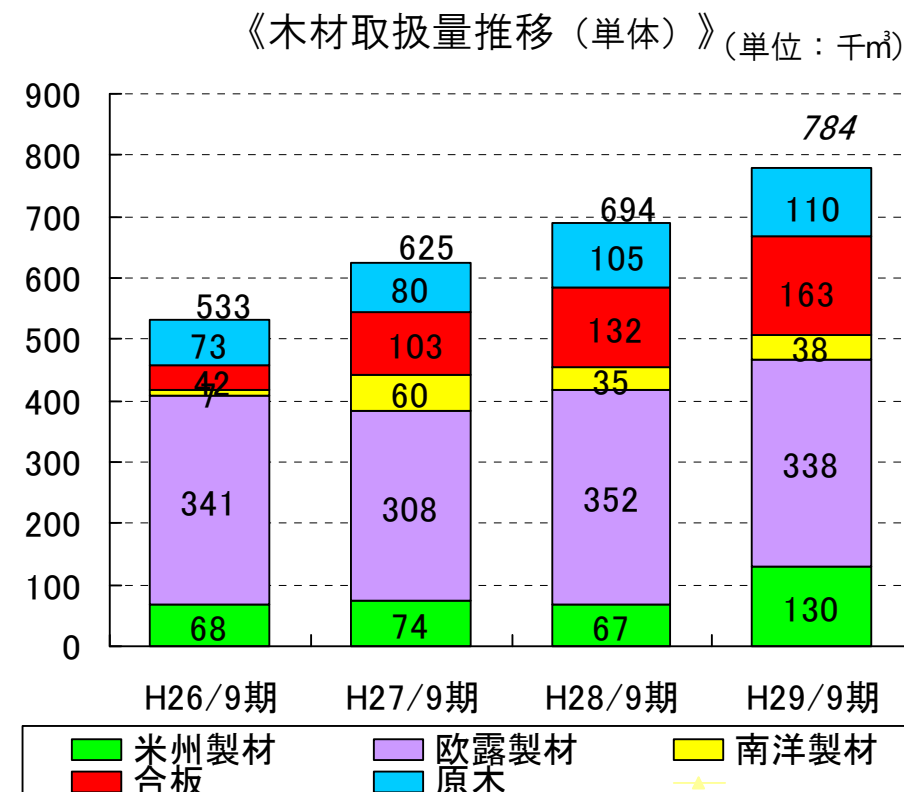
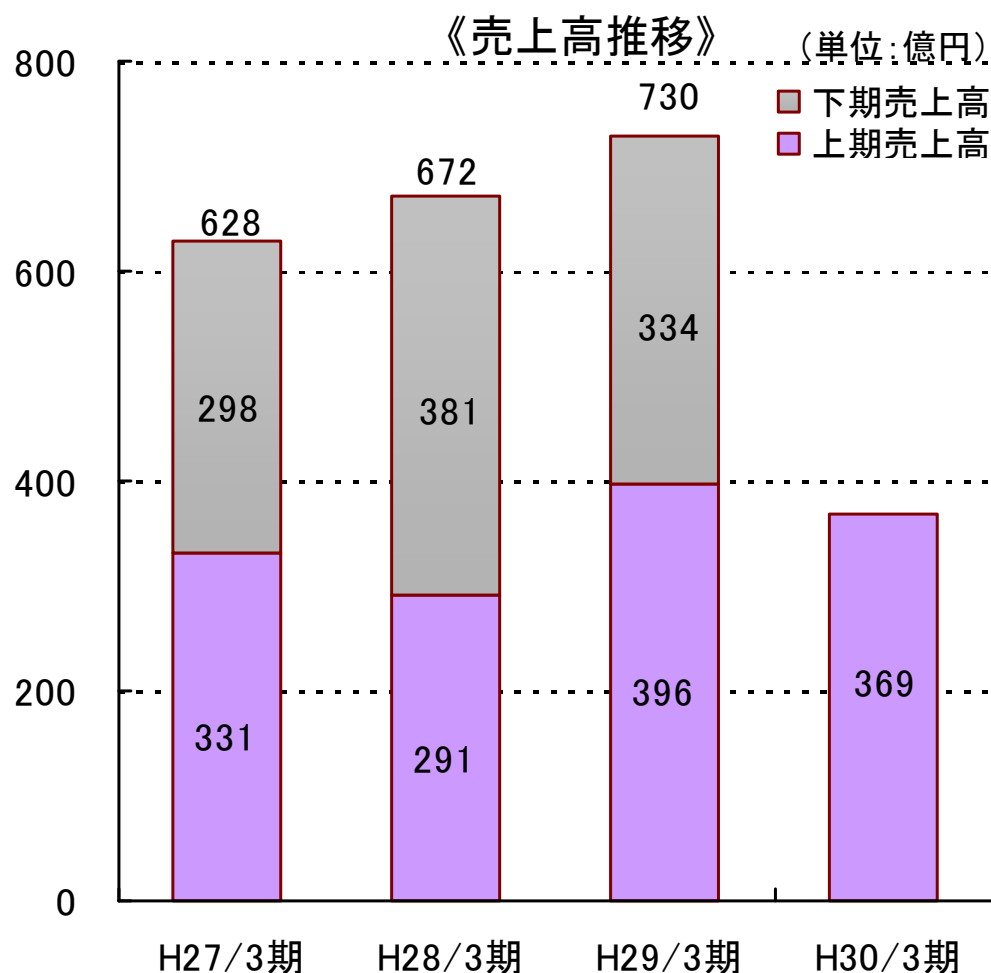


その他の事業の状況

(単位：億円)

	前第2四半期	当第2四半期	増減比
売上高	396	369	△7%
セグメント利益	9	4	△58%

木材事業は住宅メーカー向けなどへの販売が堅調だったものの、前年同期に収益に貢献した機械事業でのレジャー機械の完工収入が当期はないため、減収減益。



事業収益率は堅調に推移。運転資金・投資資金需要の増加から借入金が増加し、ネットDERは若干上昇。

新規取引社数は残りの中計期間3年分のほぼ1/6を達成。

【定量指標の推移】

		H27/3	H28/3	H29/3	H29/9	
ROIC（投下資本EBIT率）		(%)	4. 4	4. 5	6. 2	3. 1 (6. 2)
ネットDER		(倍)	1. 8	1. 4	1. 4	1. 5
新規取引社数		(社)	665	705	697	338
ROE（自己資本純利益率）		(%)	6. 9	17. 2	10. 1	4. 7 (9. 4)
	売上高純利益率	(%)	0. 5	1. 7	1. 1	1. 0
	総資産回転率	(%)	279. 1	241. 7	234. 0	114. 7 (229. 4)
	財務レバレッジ比率	(%)	471. 5	422. 2	397. 8	418. 3

(H29/9 () は、年度換算参考値)

中期経営計画の進捗状況

STEADYについては、通期予想の5割を達成。

SPEEDYについては、連結子会社、持分法適用会社ともに概ね好調に推移。

STRATEGICについては、Samancor Chromeの持分利益と償却負担が同水準となり、損益影響は僅少。

(単位：億円)

	H30年3月期	上期実績	通期予想	進捗率
資源投資からの追加収益 国内外グループ会社の収益 阪和興業本体の収益	STRATEGIC 資源投資からの配当・ 持分法投資収益	△0	15	—%
	SPEEDY 連結子会社経常利益 ＋非連結子会社配当等	31	45	71%
	STEADY 単体経常利益 （子会社配当控除後）	92	180	51%
	Total	122	240	51%

当第2四半期は、鉄鋼事業で、国内・海外子会社とも好調なところが多く、増益。金属原料は前期赤字の昭和メタルの収益改善。子会社全体では26億円の利益増。

【セグメント別グループ会社の経常利益推移】

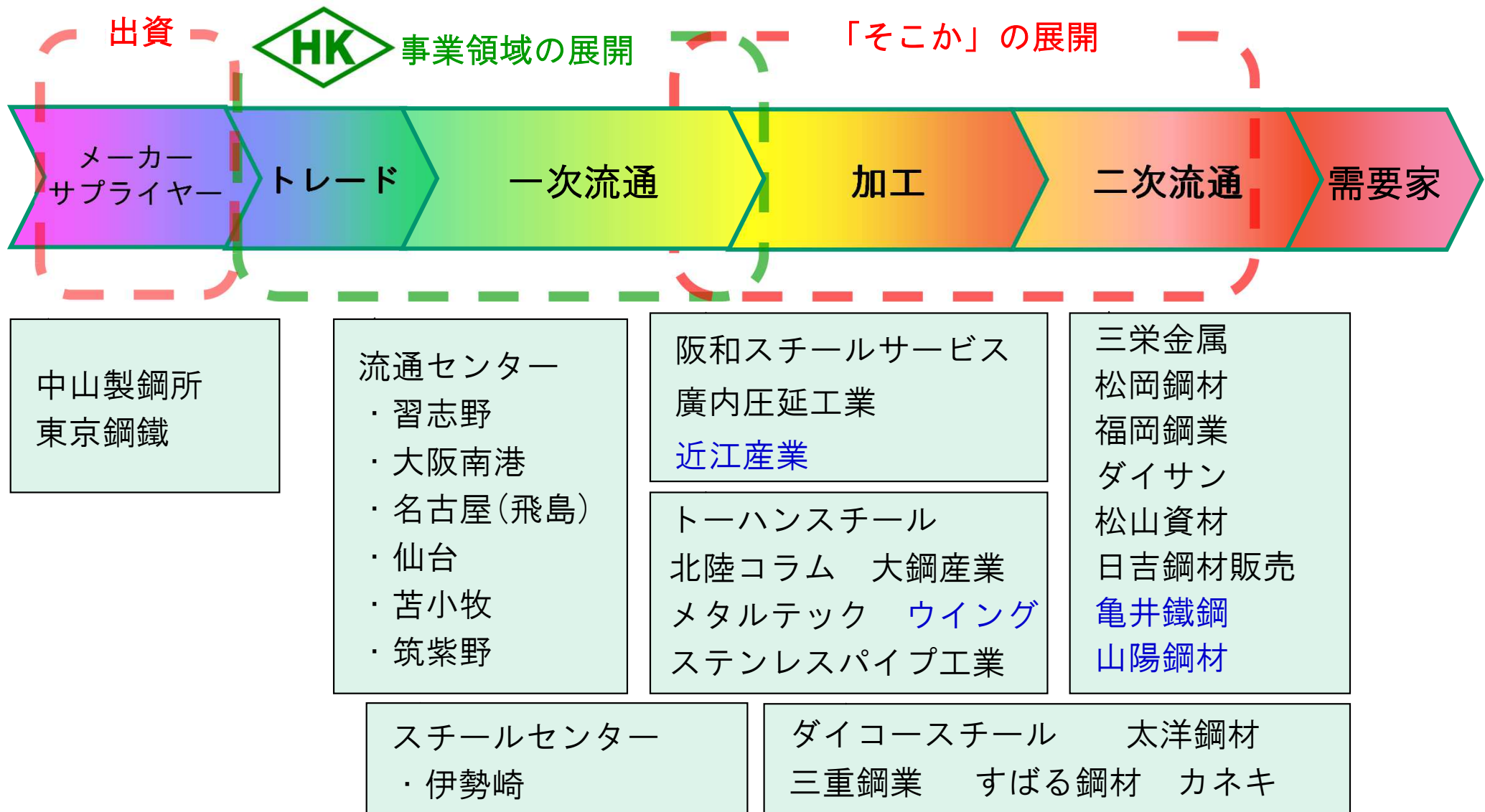
(単位：億円)

	前第2四半期		当第2四半期		増減額	
	連結子会社	非連結子会社	連結子会社	非連結子会社	連結子会社	非連結子会社
鉄鋼	7.9	2.6	21.4	6.0	+13.5	+3.4
金属原料	△5.5	0.2	1.1	0.1	+6.5	△0.1
非鉄金属	1.6	0.4	1.7	1.1	+0.2	+0.7
食品	1.7	△0.3	0.9	△1.0	△0.9	△0.7
石油・化成品	1.9	0.3	0.8	0.4	△1.0	+0.1
海外販売子会社	1.1	△1.5	2.0	0.4	+0.9	+1.9
その他	1.0	0.6	2.3	0.9	+1.3	+0.2
合 計	9.8	2.5	30.3	7.9	+20.6	+5.5

(合計は各社利益の単純合算、前第2四半期の連結・非連結区分は、当第2四半期ベースに組替)

国内バリューチェーン伸長戦略の状況

バリューチェーン全体をカバーする「そこか（即納・小口・加工）戦略」を推進するため、機能のある中小の鋼材卸売・加工業者のグループ化を進展。
今期は亀井鐵鋼、山陽鋼材、ウイング、近江産業がグループ会社化。



東南アジアに第二の阪和戦略の進捗状況

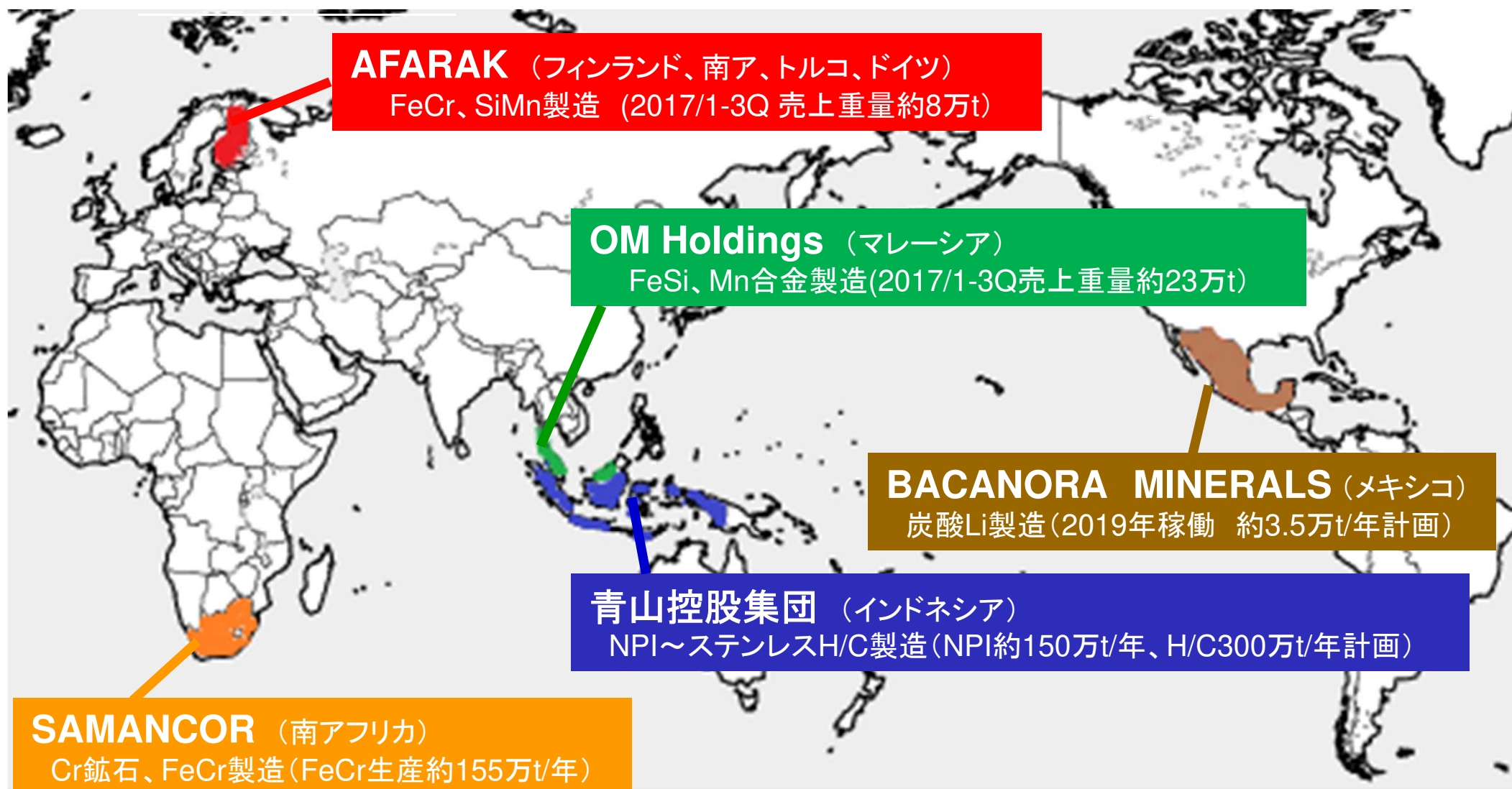
当社のビジネスモデルをASEAN地域に浸透させるために、現地の有力な流通業者とのアライアンスや日系企業との共同進出を拡大している。

【主要なアライアンス先】

国	流通	加工	製造
タイ		HSS Thailand PCM Processing	Furukawa Unic Siam Hanwa
インドネシア	Kapurindo Sentana Baja	HSS Indonesia	Araya Steel Tube Indonesia
シンガポール	CosmoSteel Holdings HG Metal Manufacturing		
ベトナム	SMC Trading	NSSB Saigon Coil Center	Nippon Steel & Sumikin Pipe Vietnam SMC Toami Sendo Steel Pipe
マレーシア	TATT GIAP Group	Eversendai Corp. TATT GIAP Steel Centre	Nippon Egalv Steel Bahru Stainless
フィリピン			Sohbi Kohgei (Phlis)

戦略的投資の状況

資源投資は、市場規模は小さいながら、産業界にとって不可欠なニッチなものを対象に実施。



将来の利益積み増しのため、当期も事業投資を積極的に推進。Samancor Chrome への追加出資や北関東スチールセンターの新設など約205億円の投資を実施。

【当期の主な事業投資実績】

	総額	主要な投資内容
鉄鋼事業	47億円	・ 北関東スチールセンター新設 ・ 近江産業出資 ・ SMC Trading追加出資
金属原料・ 非鉄金属事業	150億円	・ Samancor Chrome追加出資 ・ Bacanora Minerals出資
海外販売子会社	3億円	・ 子会社の資本増強
全社	2 億円	・ 基幹システム構築

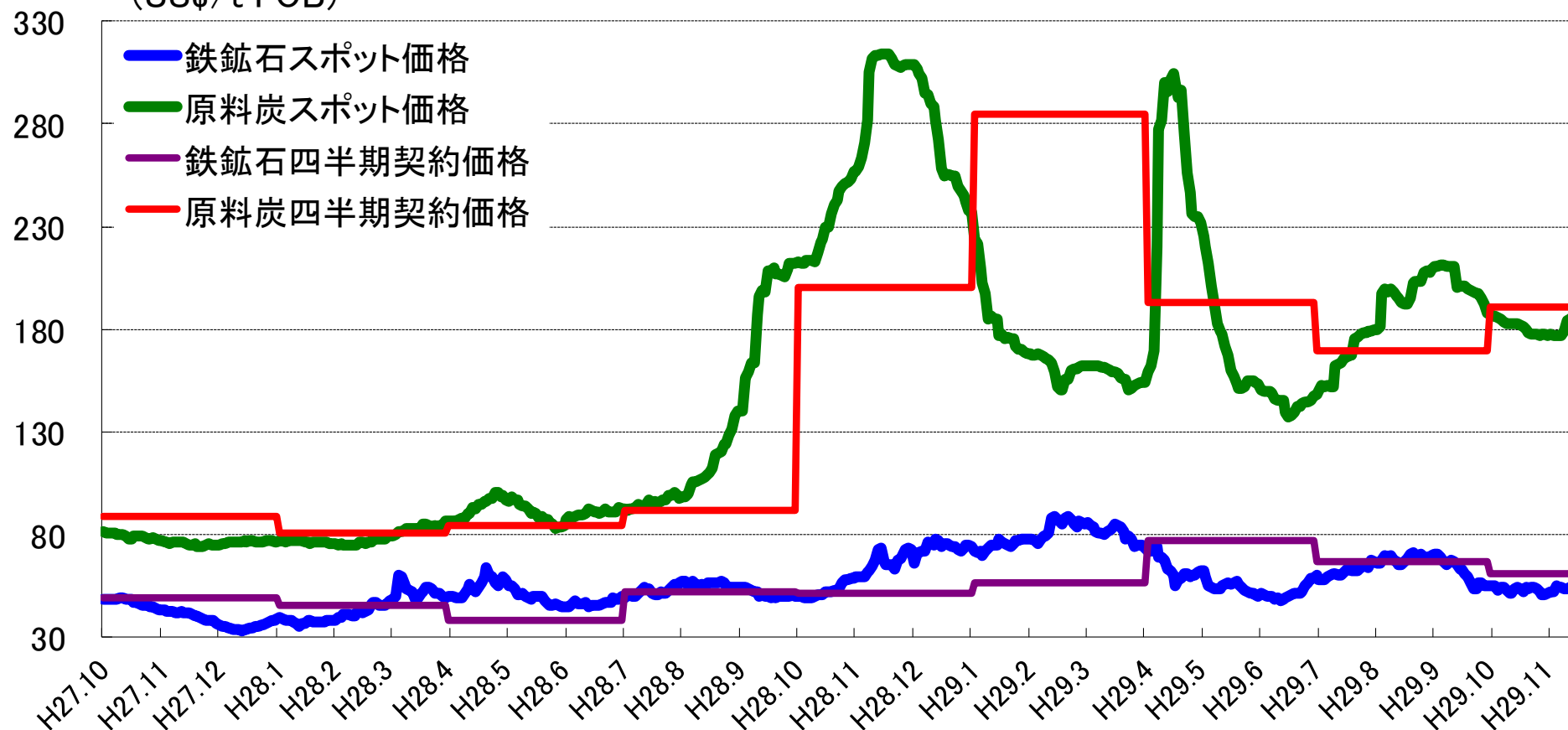
参 考 資 料

鉄鉱石…中国国内鋼材製品市況が先物、現物ともに堅調で、鉄鉱石も連動して強含みで推移。足下、鉄鋼ミル規制による消費減少を見込んで軟調。

原料炭…期初の豪州サイクロン被害による急騰、反落後は、中国、インドの引き合い堅調で上昇傾向。中国のミル操業規制で下落も、直近は強含み。

【主原料価格の推移】

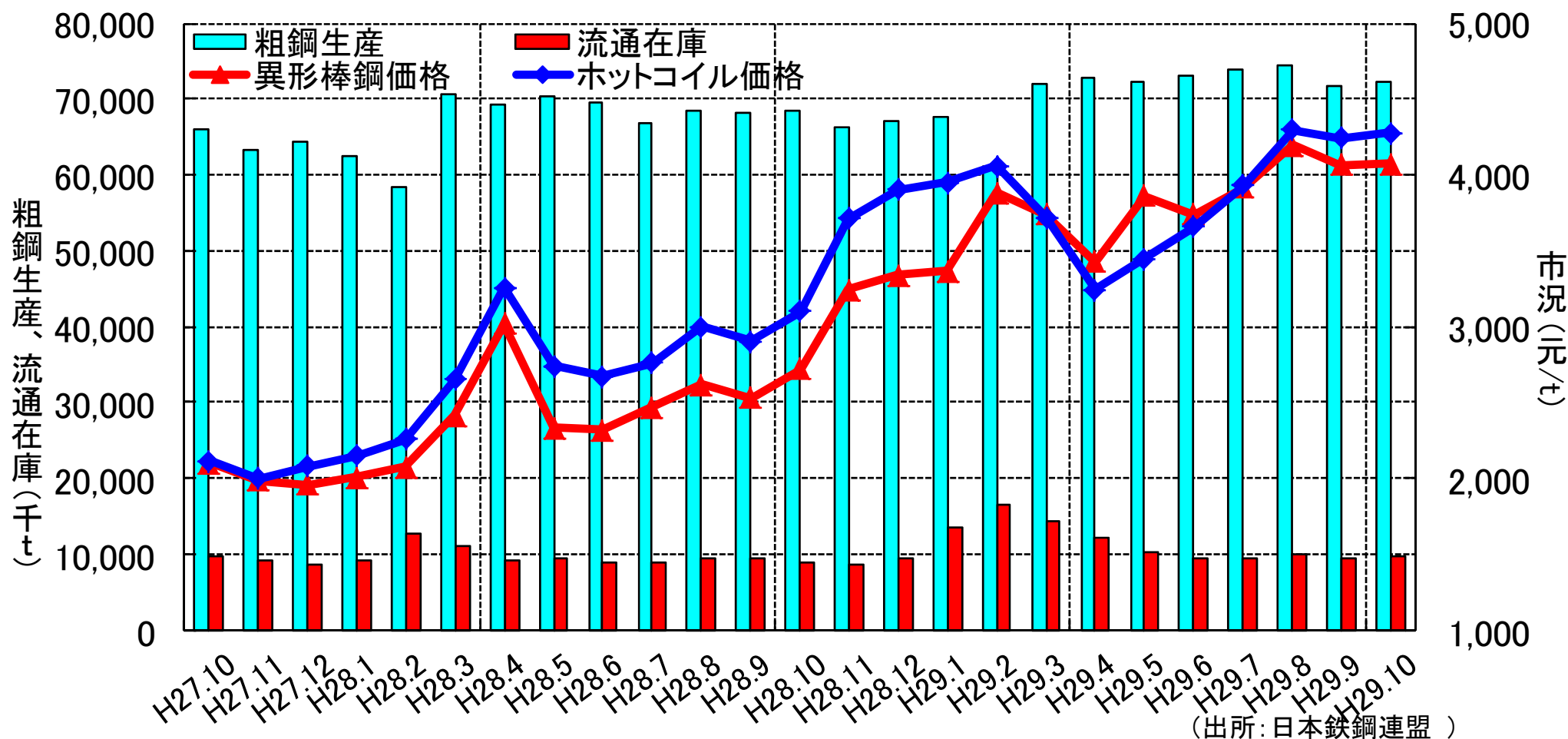
(US\$/t FOB)



鉄鋼需給…地条鋼の生産停止により、正規の鋼材需要が増加。ミルは生産増加も、国内鋼材需要も堅調だったことから、輸出が減少傾向。

市中価格…地条鋼廃止により、現物在庫が減少し、価格は上昇。湯不足から鋼板類も上昇。冬場の不需要期に入るも、生産規制もあり横ばい推移。

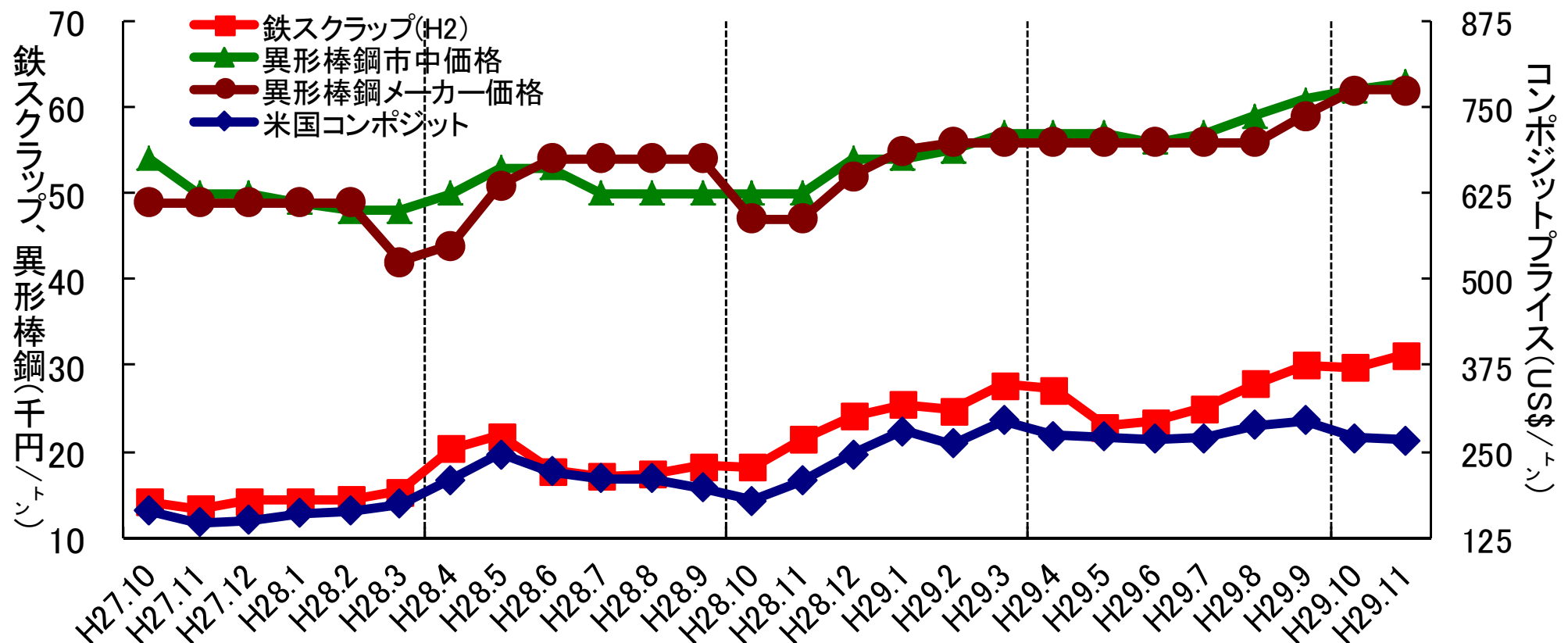
【鉄鋼需給と鋼材市況の推移】



需給動向…中国での地条鋼廃止により鋼材生産が増加、ビレットの海外流出がなくなり、アジア圏の鉄スクラップ需給がタイト化。

市況動向…海外のスクラップ市場がタイト化する中で、国内電炉もスクラップ確保に購買価格の上げで対応。市中価格もジリあげ基調に。

【鉄スクラップと異形棒鋼市況の推移】

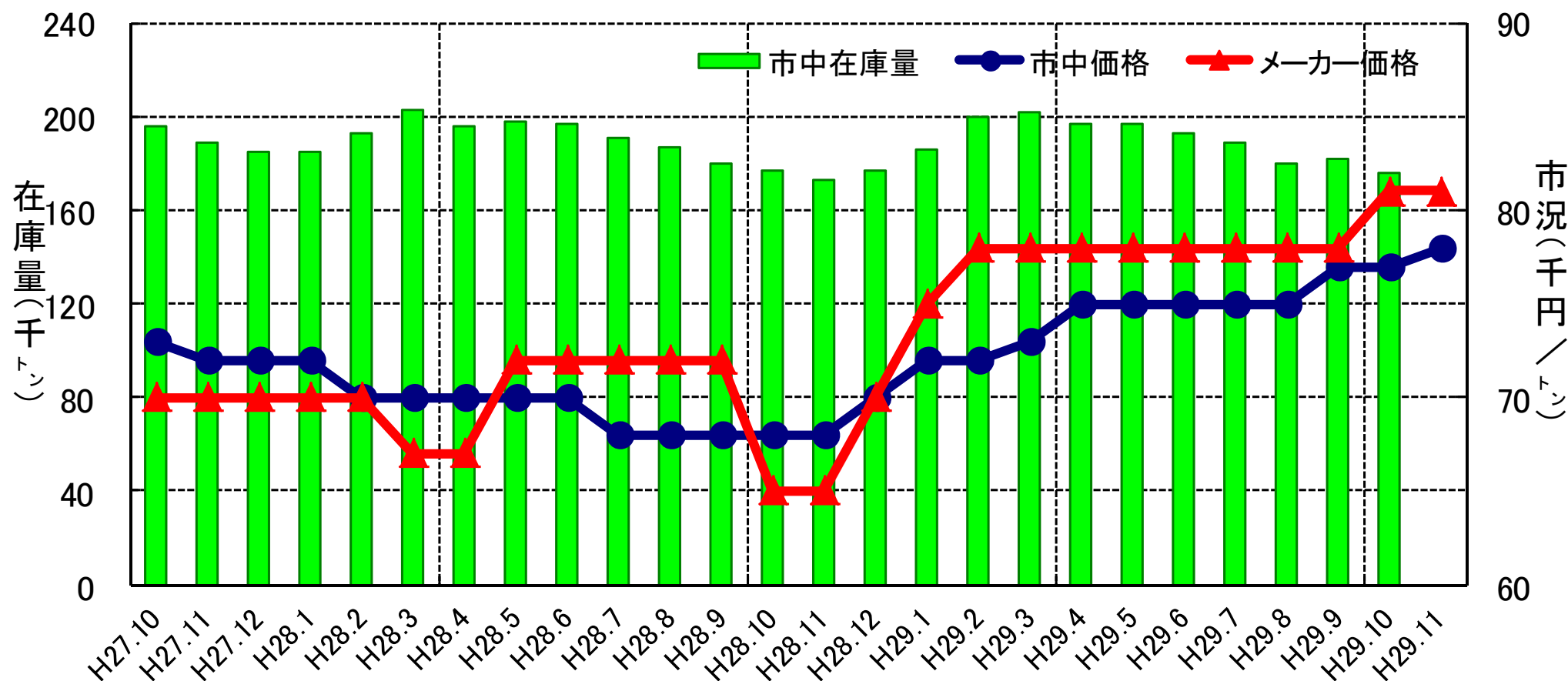


(出所: 日本鉄源協会 鉄鋼新聞)

需給動向…建築土木向け需要は堅調に推移し、在庫も漸減傾向。後半から漸く需要も上向き、鉄鋼ミルへの申込みも増加傾向に。

市況動向…前期後半からの鉄鋼ミルの値戻し方針と需要の漸増傾向により、スポット価格も徐々に上昇。

【H形鋼 市中在庫量と市況の推移】

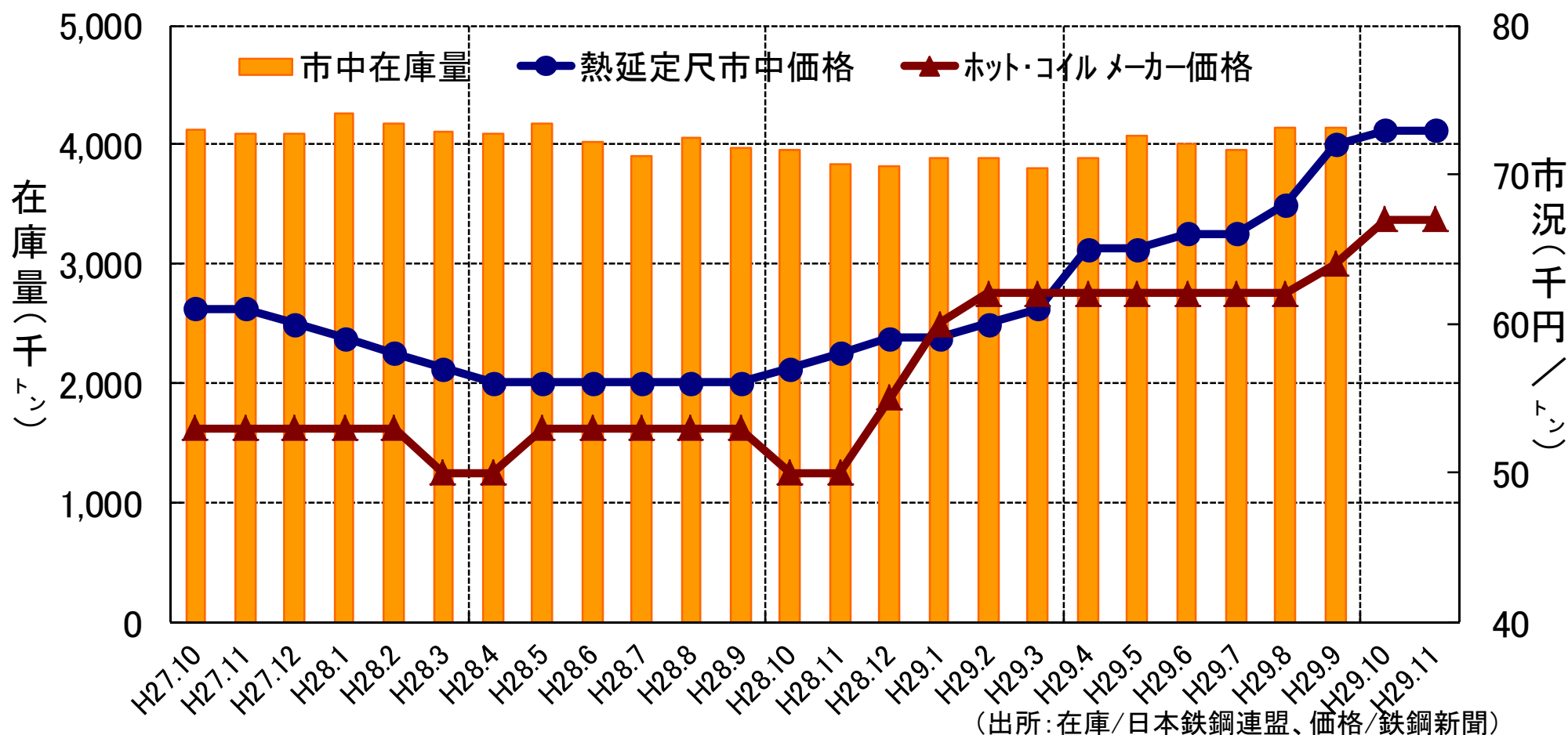


(出所: 在庫/ときわ会、価格/鉄鋼新聞)

需給動向…製造業の稼働は概ね堅調で、鋼板需要は底堅く推移。鉄鋼ミルも炉修や不調により、大幅な増産はできず、タイト感がでた。

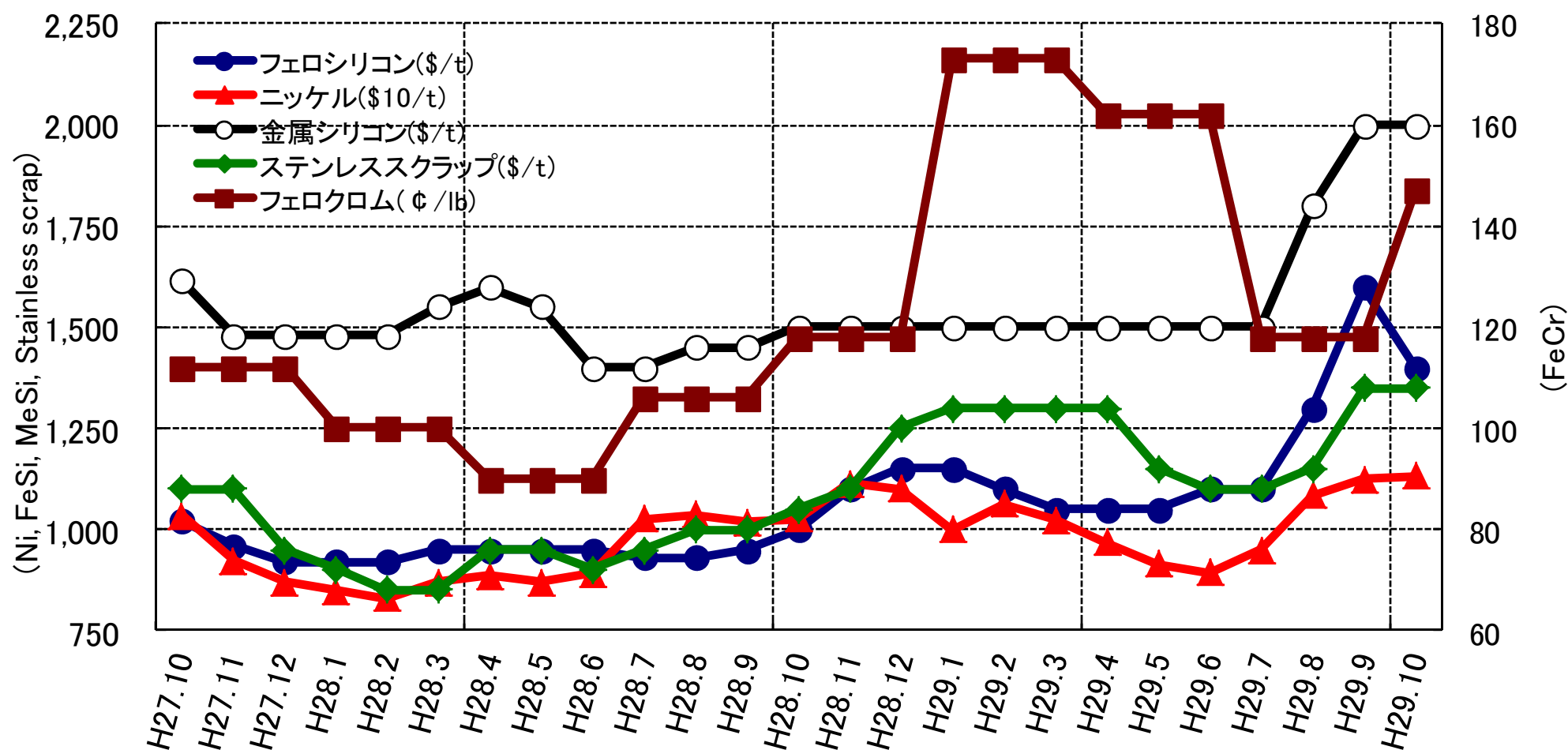
市況動向…鉄鋼ミルの値上げ姿勢により、市況上昇。引受カット等もあり、タイト感が強まり、足下一段上昇。

【薄板3品市中在庫量と熱延鋼板市況の推移】



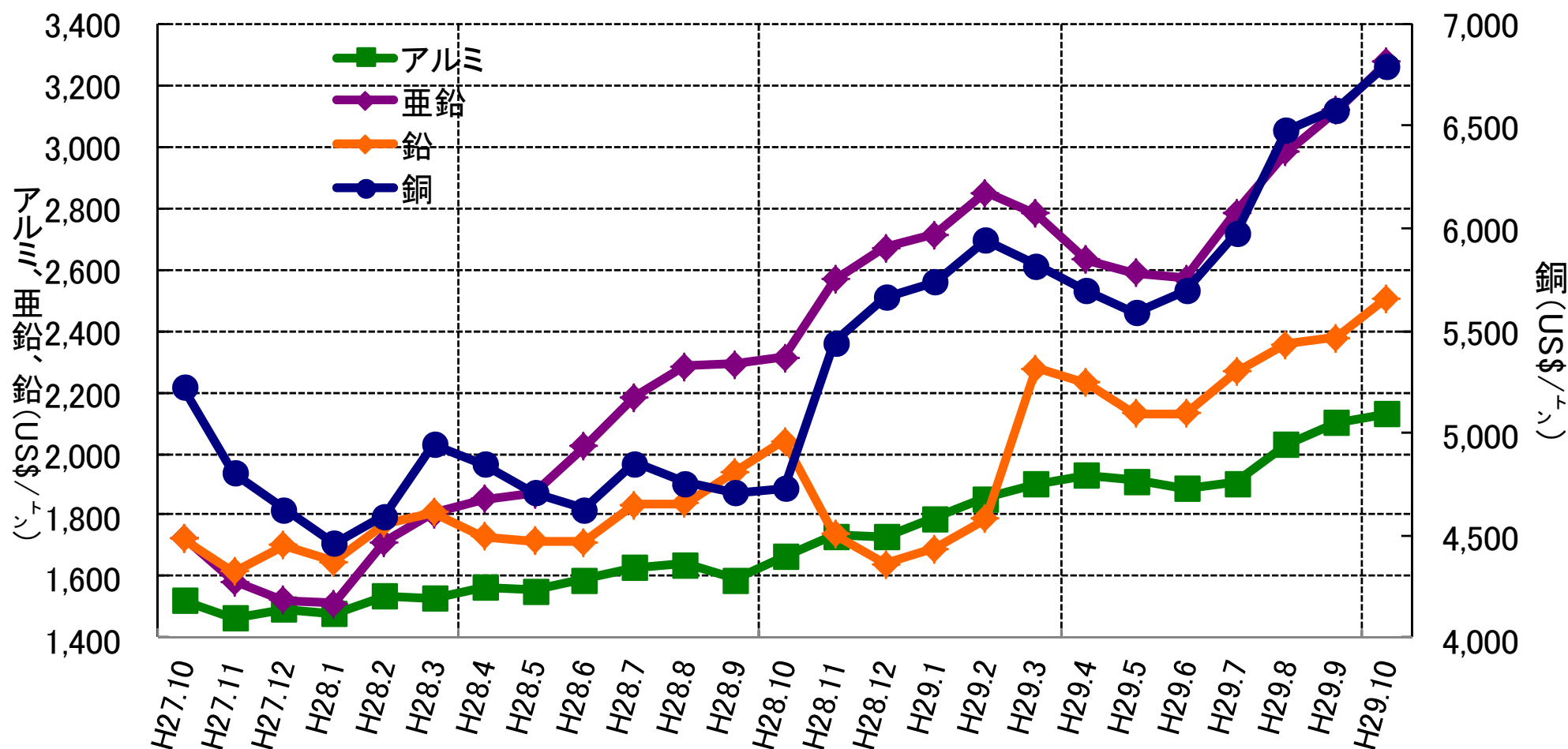
ニッケル…鉱石輸出の再開や中国需要の停滞で一時的に下落するも、その後、中国需要の回復期待や供給不足懸念等も出て、復調。

合金鉄…中国の鋼材増産から需要が増加する一方で、環境規制や産出地域近辺での地震等の影響もあり、供給がタイト化し、価格強含み。



アルミ…LME価格はじり高傾向。中国の生産者の設備廃棄方針や省政府による精錬能力削減策などにより、足下は上げ足強まる。

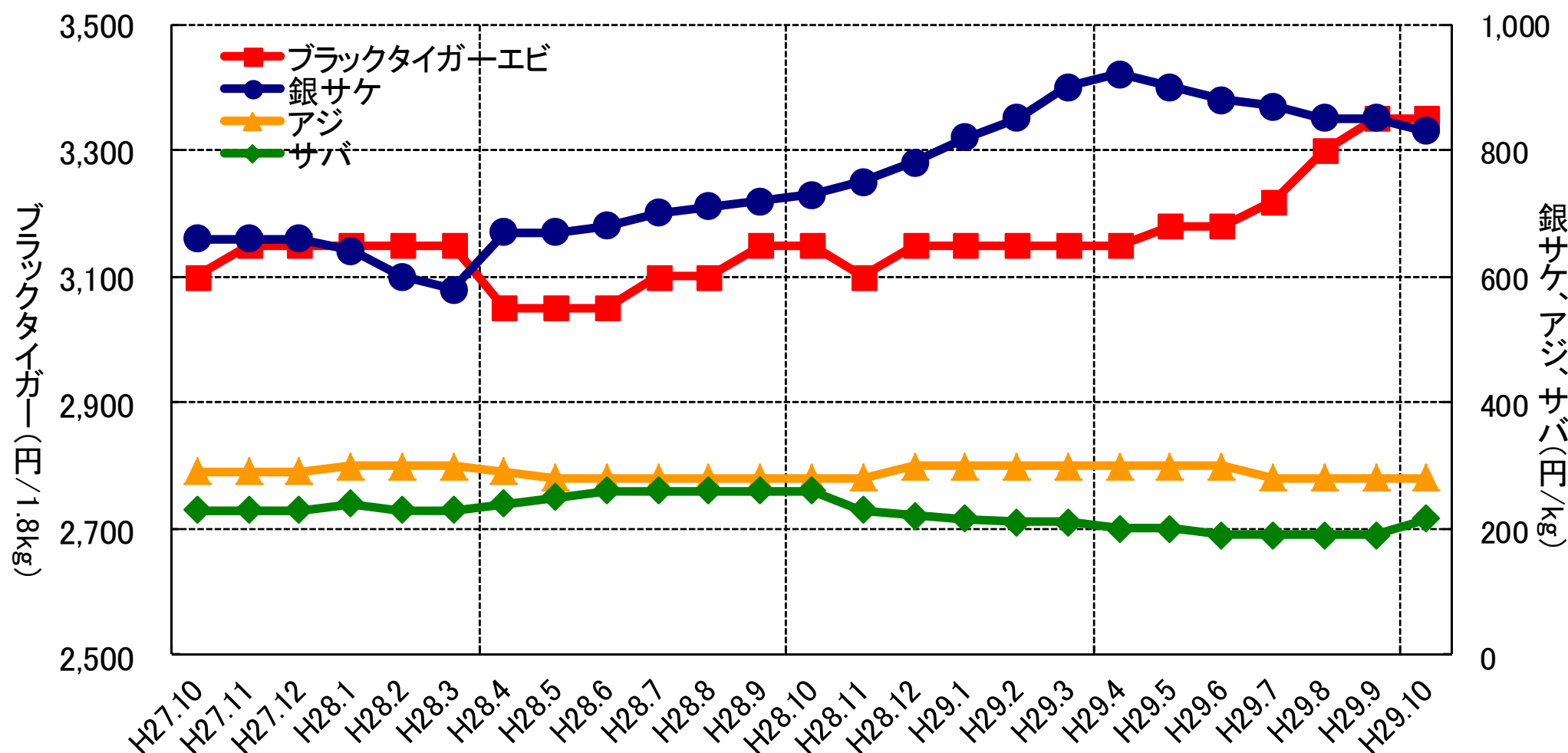
銅…LME在庫の増加により前半弱含みの推移だったが、中国のスクラップ輸入抑制策や中国需要への期待感、北朝鮮情勢などを反映して上昇。



輸入水産物市況の推移

エビ…東南アジアでの水揚げが低調で、現地相場は高値推移。国内市況も在庫低水準で強含みで推移。

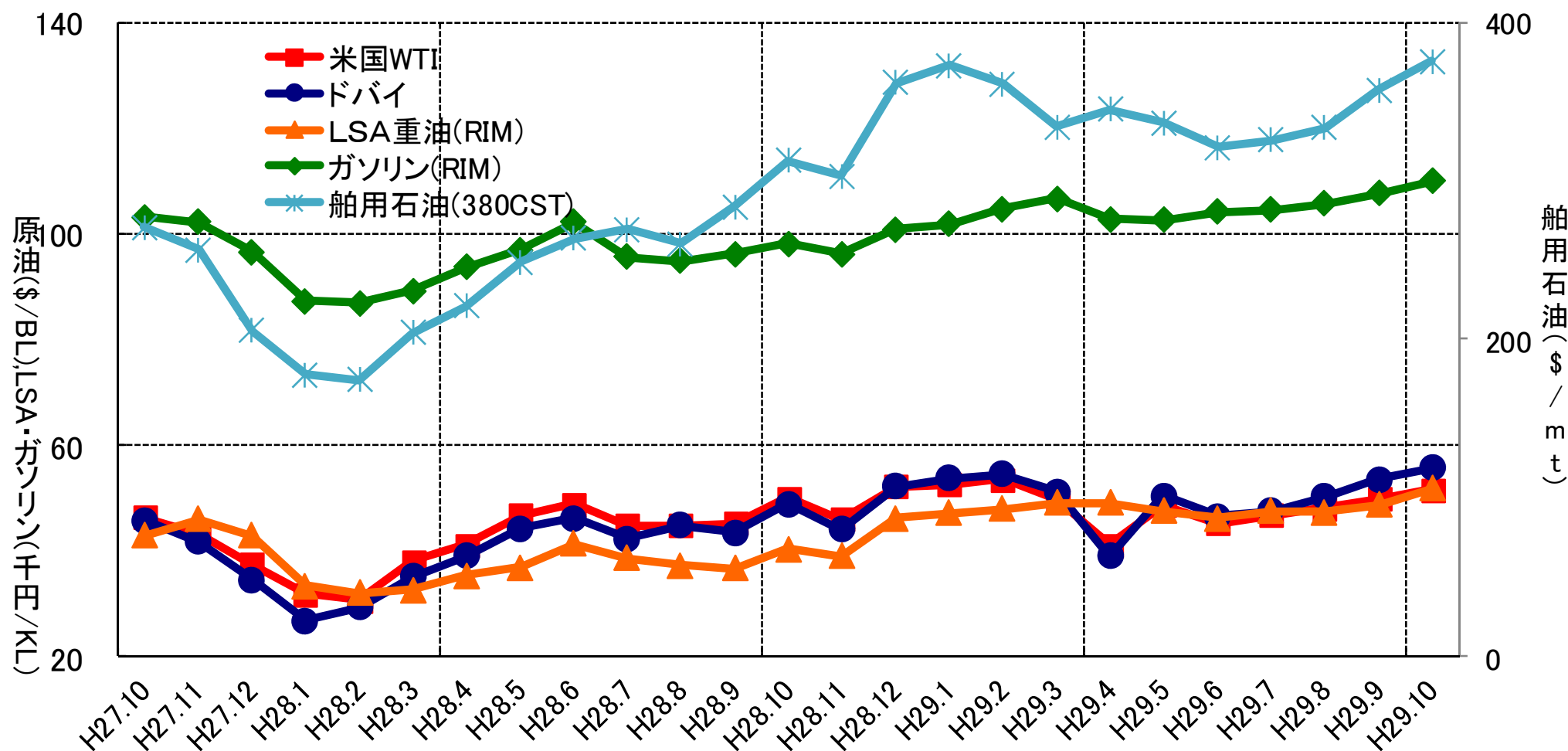
サケ…チリ銀ザケの新物が入着してきて、ロシア紅鮭などの水揚げが低調で、価格は緩やかな下げにとどまっている。



原油・石油製品市況の推移

原油…OPECの協調減産やアメリカのハリケーン影響などで緩やかな上昇基調で推移。

製品…底堅い原油価格に沿い、元売の価格政策も強気となる一方、需要は低調で、市況転嫁が困難な状況が継続。



ユーザーのために・ユーザーとともに



阪和興業株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。